

樣 仁 準 標 計 設 造 構

1. 標準仕様及び各標準図の注意事項

1. 本標準仕様及び各標準図は、本工事のものである。
2. 適用は  印を記入する。
3. 本標準仕様、各標準図及び各図面に記載されていない場合は、建設大臣官房官庁営繕部監修「建築工事共通仕様書」の最新版（以下「共通仕様書」と略称）による。
4. 「共通仕様書」に記載されていない事項は、日本建築学会「建築工事標準仕様書・同解説」の最新版（以下「JASS」と略称）による。
5. 標準図とは、鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)・(2)、鉄骨構造標準図(1)・(2)、壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)・(2)の事である。

2. 一般事項

1. 権限仕様書、共通仕様書及びJASSOの試験は、原則として公的試験所で行うものとして、その決定にあたっては工事監理者の承諾を受けなければならない。
2. 工事監理者の検査を受ける場合は、検査予定日の一週間前までに連絡する。
3. 本工事の着手に先立ち、実施工程表、総合施工計画書、及び当該工事の施工に先立ち、施工計画書、施工図を作成し、工事監理者の承認を受ける。
4. 工事が完成したときは、工事監理者の指示により下記のものを作成し、工事監理者に提出する。

3. 建築物の構造内容

- | | | | |
|-----|---|---|---|
| (1) | 工事名称
建築場所 | 社会福祉法人まるこ福祉会 とんぼハウス
長野県上田市生田二ツ井戸5071-1、-5・5073-12、-18・5075-1 | |
| (2) | 工事種別 | ☒ 新築 ☐ 増築 ☐ 増改築 ☐ 改築 | |
| (3) | 構造種別 | ☐ 木造(×4工法) ☐ 補強コンクリートアログ造(CB) ☐ 鉄骨造(S) | |
| | ☒ 鉄筋コンクリート造(RC) ☐ 壁式鉄筋コンクリート造(WRC) | | |
| | ☐ 鉄骨鉄筋コンクリート造(SRC) | | |
| | ☐ 壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造(WPRC) | | |
| (4) | ☐ プレキャスト鉄筋コンクリート造(PCRC) | | |
| | 階数 | 地下 階 | 地上 1階 |
| (5) | 主要用途 | 福祉施設 | |
| (6) | 屋上付属物 | | |
| | ☐ 広告塔 ☐ 受水槽 ☐ KN | | |
| | ☐ 煙突 ☐ キューピカル ☐ KN | | |
| (7) | 増築部分 | 有 (☐ 無 ☒ 無) | |
| (8) | 付帯工事 | | |
| | ☐ 門扉 ☐ 擁壁 | | |
| (9) | 特別な荷重 | ☐ | |
| | エレベータ | 人乗り(0-7式、油圧式) | |
| | ホイスト | KN | ☐ 倉庫積載床用 ☐ W/m ² ☐ リフト ☐ 受水槽 |

4. 使用構造材料

(1) コンクリート					
適用箇所	種類	設計基準強度	品質管理強度	スラブ厚	備考
均しコンクリート	● 普通	■ 18	■ 21	18cm以下	
土間コンクリート	● 普通	■ 18	■ 21	18cm以下	
基礎、基礎梁	● 普通	■ 21	■ 24	18cm以下	比重
柱、梁、床、壁	● 普通	■ 21	■ 24	18cm以下	比重
押えコンクリート	□ 普通	□			比重

※ 単位水量 185kg/m³
水セメント比 50%以下
空気量 4～6% とする。

- (2) コンクリートブロック (CB)
- | | | | | | | | |
|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|---|-------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|------------------------------|
| ☐ A種 | ☐ B種 | ☐ C種 | 厚 | ☐ 100、 | ☐ 120、 | ☐ 150、 | ☐ 190 |
|-----------------------------|-----------------------------|-----------------------------|---|-------------------------------|-------------------------------|-------------------------------|------------------------------|

(3) 鉄筋

(3) 鉄筋	種類	径	使用箇所	継手工法
異形鉄筋	☒ SD295A	D10~D16	基礎・梁・柱・スラブ・階床	☒ 重ね継手
	☐ SD295B			
	☐ SD345			☐ 力入圧接継手 ☐ 重ね継手 ☐ 特殊継手
丸 鋼	☐ SM235			
溶接金剛	☐			()

(4) 鉄骨

種 類		使用箇所	現場溶接	
☐	SS400	小梁	☐	有 ☐ 無
☐	SS400B	大梁	☐	有 ☐ 無
☐	SM490C	通しダイヤ、内ダイヤブレード	☐	有 ☐ 無
☐	STR400		☐	有 ☐ 無
☐	SS400		☐	
☐			☐	

- (5) ボルト ☐ 高力ボルト ☐ F10T ☐ S8T ☐ S10T 認定品 ☐ M12、☒ M16、☒ M20、☐ M22
☐ 中ボルト $\Phi =$ 高力ボルトすべり係数試験 ☐ 要 ☒ 否
☐ アンカーボルト SS400 部材リスト参照 高力ボルト導入張力確認試験 ☐ 要 ☒ 否
☒ 頭付スタット $\Phi 16$ $L=120$ @150 (仕保護コンクリート部分)
- (6) 屋根、床、壁
☐ ALC版 厚 (壁)、厚 意匠図参照
☐ 折版 形式 ☐ キープレート 部材リスト、仕様書参照。
☐ キープレート 形式 厚

5. 地 點

- (1) 地盤調査資料
☒有 (☒敷 地 内 ☐近 隣) ☐
☐無 (調査予定 ☒有 ☐無) ☐水平地盤反力係数の測定
- (2) 地盤調査計画
☐ボーリング調査 ☐静的貫入試験 ☒標準貫入試験 ☐土質試験
☐物理探査 ☐平板載荷試験 ☐水平地盤反力係数の測定
- (3) 地盤調査及び試験の結果により、杭長、杭種、直接基礎の深さ形状を変更する場合もある。

6. 地業工事

- (1) 直接基礎
- | | | | |
|--|------------------------------|-------------------------------|--|
| ☒ ベタ基礎 | ☐ 布基礎 | ☐ 独立基礎 | 試験型 ☐ 有 ☒ 無 |
|--|------------------------------|-------------------------------|--|
- 基礎梁と、支持脚梁と共、基礎図参照。
- | | | | |
|----------|---------------------|----------|---------------------|
| 長期許容支持力度 | 20kN/m ² | 短期許容支持力度 | 40kN/m ² |
|----------|---------------------|----------|---------------------|
- 施工時に、上記の支持力を確認する事。もし上記の支持力を満足しない場合は基礎の設計変更を行う。

抗 種	材 料	施 工 法	備 考
☐ NO PNC ☐ PNC 付鋼 ☐ 鋼管 厚板鉄 ☐	PNC (☐ 種 ☐ 種 ☐ 種) PNC (☐ A種 ☐ B種 ☐ C種) 鋼材 SS400 ST3600	☐ 打ち込み ☐ 埋込み(セメントミルク工法)	大形認定新 年 月 日
☐ 場所打ち コンクリート杭	コンクリートFC= cm ステンゾ セメント量 kg/m ³ 鉄筋 主筋 SD HWP SD	☐ オールケーシング ☐ 杭底鉄 ☐ リバースサキューション ☐ テーストソイル ☐ ミニケース ☐ BH 深礎 ☐ 手掘 ☐ 機械掘	拡張杭 日本建築センター認定 第 号 年 月 日

7. 鉄筋コンクリート工事

- (1) コンクリート
- コンクリートは、JIS認定工場の製品とし施工に関してはJASS5 (2018)による。
- 耐久設計基準強度 F_d ■ 一般 ■ 標準 ■ 長期セメントは、JIS R5210の普通ポルトランドセメントを標準とする。
- 間合計画は、工事開始前に工事監理者の承認を得ること。
- 寒中、暑中、その他特殊コンクリートの適用を受ける期間に当たる場合は、間合、打ち込み、養生、管理方法など必要事項について、工事監理者の承認を得る事。
- フレッシュコンクリートの塩化物流定は、原則として工事現場で(財)国土開発技術研究所センターの技術評価を受けた測定器を用いて行い、試験結果の記録及び測定部の表示部を一回の測定ごとに撮影した写真(カラー)を保管し承認を得る。
- 測定検査の回数は、通常の場合、1日1回以上とし、1回の検査における測定試験は、同一試料から取り分けて3回行い、その平均値を試験値とする。
- 構造体コンクリート現場の圧縮強度試験供試体(JASS5-603)は、現場水中養生、または現場封かん養生とし、採取は打ち込み区ごと、打ち込み区ごととする。
- また、打ち込み量が150m³をこえる場合は50m³以上区ごととし、その運搬ごとに一回を標準する。一回に採取する供試体は、適当な間隔をおいた3台の連続車からその必要本数を採取する。なお、供試体の数量は、特別指示なき場合は、1回当たり6本以上とし、そのうち4運用に3本を用いる。
- ポンプ打ちコンクリートは、打ち込み位置にできるだけ近ずけて垂直に打ち、コンクリートの自由落下高さは、コンクリートが分離しない範囲とする。ポンプ圧送に際しては、コンクリート圧送技士又は、同等以上の技能を有する者が従事すること。尚、打ち込み継続中における打ち継ぎ時間間隔の限度は、外気温が5℃未満の場合は150分、25℃以上の場合は120分以内とする。
- ※コンクリートの打ち込み及び締固め方法、打ち継ぎ部の処理方法はJASS7第、8節によるものとする

(2) 鉄筋

- 鉄筋はJIS S31120の規格品を標準する。施工は、JASS5 (2018) による。
- 鉄筋の加工寸法、形状、かつり厚さ、鉄筋の継手位置、継手の重ね長さ、定着長さ「鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)」、「(2)」又は、「壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)」、「(2)」による。
- D19未満は、全て重ね継手とする。継手(D19以上)をガス圧接とする場合は、日本圧接協会「鉄筋のガス圧接工事標準仕入れ書」による。
- ガス圧接部の抜き取り検査は、同一作業班が、同一日に施工した圧接箇所ごと(20箇箇所を越えるときは、200箇箇所ごと)に1回行い、1回の試験は5本以上とする。
- 外観検査 ☐ 有 ☐ 無、引張試験 ☐ 有 ☐ 無、超音波梁傷試験 ☐ 有 ☐ 無
- 柱の帯筋(HOP)の加工方法は、☒ H型(タガ型) ☐ W型(溶接型) ☐ S型(スパイラ
- ル型)とする。

- (3) 型枠 材料 合板厚 12mmを標準とする。

種類 部位		せき板		支　柱				
		基礎、梁側、柱、壁	スラフ下、梁下	スラフ下	梁下			
はな の種 類	早強コンクリート	普通コンクリート	早強コンクリート	普通コンクリート	早強コンクリート			
	ラフトセメント	ラフトセメント	ラフトセメント	高炉セメント A種	ラフトセメント			
		高炉セメント A種	高炉セメント	高炉セメント	普通コンクリート			
		シリカセメント A種	シリカセメント	シリカセメント A種	ラフトセメント			
					高炉セメント A種			
					シリカセメント A種			
存続期間の平均気温								
15℃以上	2	3	4	6	8	17	28	
5℃～15℃	3	5	6	10	12	25	28	
5℃未満	5	8	10	16	15	28	28	
その他								
コンクリートの 圧縮強度	5.0N/mm ²		設計基準強度の 50%		設計基準強度の 85%			100%

- (注) 1 片持梁底、スパン9.0m以下の梁下は、工事監理者の指示による。
- (注) 2 大梁の盛土の盛土は直下になる。また、その他の梁の場合も原則として行わない。
- (注) 3 支柱の盛土は、必ず直上階のコングリートを打ち後とする。
- (注) 4 盛土後の支柱頂部には、厚い受板、角材又は、これに代わるものを置く。
- (注) 5 支柱の盛土は、小梁が括弧で、スラブを行なう。
- (注) 6 一時に全部の支柱を取り持つて、盛土をする場合は、工事監理者の指示による。
- 上表以外のセメントを使用する場合は、

8. 鉄骨工事

- (1) 鉄骨工事は指示のない限り下記による

 - ☐ 日本建築学会「JASS6」「鉄骨利度検査基準」「鉄骨工事技術指針」
 - ☐ 鋼材倶楽部「建築鉄骨工事施工指針」

(2) 工事監理者の承認を必要とするもの

 - ☐ 製作工場 ☐ 製作要領書 ☐ 工作図 ☐ 施工計画書
 - ☐ 建設告示第1103号による認定工場(大臣認定 Mグレード以上)
 - ☐ 材料規格証明書又は、試験成績書
 - ☐ 鋼材 ☐ 高力ボルト ☐ 特殊ボルト ☐ スタットボルト ☐ ☐
 - ☐ 社内検査表

(3) 工事監理者が行う検査項目

(●) 印以外の項目の検査結果については、工事監理者に報告すること

 - ☐ 現寸検査 ☐ 組立 ☐ 開先検査 ☐ 製品検査

(4) 接合部の溶接は下記によること

 - ☐ 日本建築学会「溶接工作基準、同解説 I、II、III、IV、V、VI、VII、IX」
 - ☐ 日本建築学会「鉄骨工事技術指針・工事現場施工編」
 - ☐ ☐

(5) 接合部の検査

 - ☐ 溶接部の検査(検査結果は後日工事監理者に報告すること)

- | 検査箇所 | 検査方法 | 検査率又は検査数 | | | | 備 |
|----------|-----------|----------|-------|-------|---|---|
| | | 社
内 | 第三者 | 工事監理者 | | |
| ● 突合せ溶接部 | 超音波探傷試験 | 100 % | 30 % | | % | |
| □ | 外観(目視)検査 | 100 % | 100 % | % | % | |
| □ | πラウ試験、その他 | 個 | 個 | 個 | 個 | |
- 第三者検査機関名
 第三者検査機関には、建築主、工事監理者又は工事施工者が、受入れ検査を代行
 させるための、自ら受託した検査者をいう。

- 主1) 現場溶接部については、原則として第三者による全数検査を行う事。
- 主2) 現場溶接部は、超音波探傷試験を100%行う事。
- 高圧ボルトは「JIS B1860の高圧ボルト」を標準とする。摩擦面の処理は黒皮などを含め溶接治具以上の粗度でショットブラスト、グラインダー掛け等を用いて除去した後、屋外に自然放置して発生した、赤さび状態であること。但し、ショットブラスト、グリットブラストによる処理で表面のあらさが50S以上である場合は、赤さびは発生しないままでよい。
- 高圧ボルトの締付けに使用する機器はよく調整されたものを使用し、締付けの順序は教材に十分指示するよう注意して行う。又、締付けは一次、二次締めとする。締付け後の検査は、各締付け工法別に適切な締付けが行なわれているかを検査する。

- ⑥ 防錆塗装
防錆塗装の範囲は、高カボルト接合の摩擦面及びピンクレーターで被覆された、以外の部分とする。錆止めのイベントは、JIS K5621、2回塗りを選択とする。
- ⑦ 現場における高カボルト接合部及び接合部の薬品調整は入念に行い、塗装は工場塗装と同じ錆止めイベントを使用し2回塗りとする。

- (7) 耐火被覆の材料

9. 設備関係

- 特記以外の梁貫通孔は原則として設けない、設ける場合は設計者の承認を得ること。
- 設備機器の架台及び基礎については工事監理者の承認を得ること。
- 床スラブ内に設備配管等を通込む場合はスラブ厚さの1/3以下とし管の間隔を、管径の3倍以上かつ5 cm以上を原則とする。

10. その他

- 諸官庁への届出書類は遅滞なく提出すること。
- 各試験の供試体は公的試験機関にて試験を行い工事監理者に報告すること
- 必要に依りて記録写真を撮り保管すること。

壁式鉄筋コンクリート構造配筋標準図 (1)

1. 一般事項

- (1) 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する。
- (2) 記号
 - D・・・異形棒鋼の呼び名に用いた数値。
 - R・・・部材の成
 - φ・・・間隔
 - r・・・半径
 - ℓ・・・中心線
 - L0・・・部材間の内法距離
 - H0・・・部材間の内法高さ
 - ST・・・あばら筋
 - H00P・・・帯筋
 - S、H00P・・・補強帯筋
 - φ・・・直径又は丸鋼

2. 鉄筋加工、かぶり

(1) 鉄筋末端部の折曲げの形状

折曲げ角度	180°	135°	90°
図			
鉄筋の余長	4d以上	6d以上 (※4d以上)	8d以上 (※4d以上)

鉄筋は、SD295A、SD295B、SD345を使用する。

折曲げ内法寸法Rは、D16以下は、3d以上、D19以上は4d、※補スラ上端筋の先端

(2) 鉄筋中間部の折曲げの形状 鉄筋の折曲げ角度90°以下

図	鉄筋の種類 所による名称	鉄筋の種類	鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ 内の寸法(R)
	帯筋 あばら筋 スベリ筋	SD295A SD295B、SD345	D16以下	3d以上
		SD295A SD295B、SD345	D16以下	4d以上

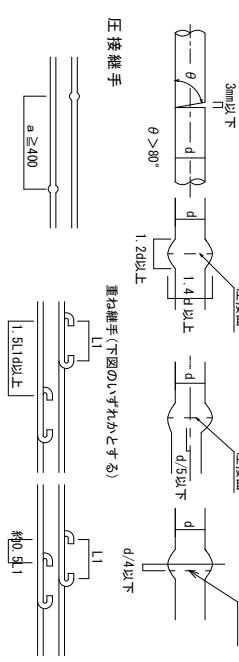
(3) 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

鉄筋の種類	普通、軽重コンクリートの設計基準強度の範囲 (N/mm ²)	一般 (L2)	下ば筋 (L3)	特別の定着及び重ね継手の長さ (L1)
SD295A	21	22.5	24	35d または 25d フックつき
SD295B				25d または 10d かつ 30d フックつき
SD345	18	30d フックつき		15d フックつき 45d または 35d フックつき

コンクリートは普通F_c=18N/mm²以上24N/mm²以下、軽重F_c=18N/mm²以上22.5N/mm²以下

継手

- 末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない
- 継手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
- 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする
- 鉄筋径の差が7mmを超える場合は、圧接としてならない



(4) 鉄筋のかぶり厚さ (単位: mm)

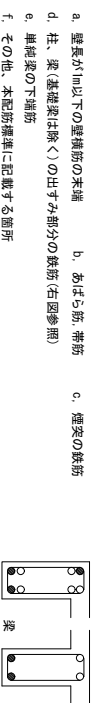
構造部分	種のかぶり厚さ (mm)	設計かぶり厚さ (mm)
屋根スラブ、床スラブ、片持ちスラブ、非耐力壁	30 u※	40 u※
耐力壁、壁梁、小梁、片持ち梁	40 u※	50 u※
土に接する耐力壁、床スラブ、布基礎の立ち上がり部分、基礎つなぎ梁	50	60
基礎 (均しコンクリート部分を除く)	70	80

- [注]
- ※ 耐久性上有効な厚さは上げが無い場合は、屋外・屋内にかかわらず10mm増しとする。
 - ※ 軽重コンクリートの場合は、10mm増しの値とする。
 - ※ 片持ちスラブ先端は、最小かぶり30mmとする。
 - ※ 劣化等級とする。

(5) 鉄筋のあき

- 異形鉄筋では呼び名に用いた数値1.5d以上
- 継骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ25以上

(6) 鉄筋のフック



3. 杭

(地震力等の水平力を考慮する必要がある場合は、別途検討すること。)

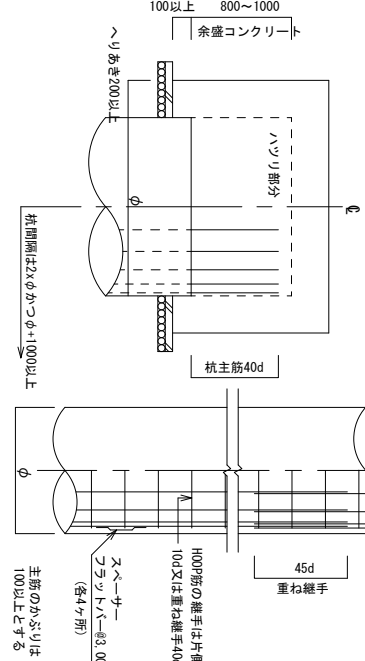
(1) PRC杭、又はPHC杭の全てに補強を行う

所定の場所に止まった場合

但し、φの場合
L>φの場合は工事管理者の指示による

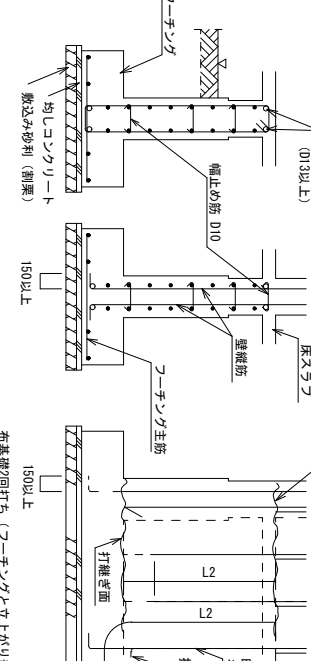
杭径	300φ、350φ	400φ	450φ	500φ	600φ
補強筋	6-D13	8-D13	10-D13	8-D16	10-D16

(2) 現場打ちコンクリート杭

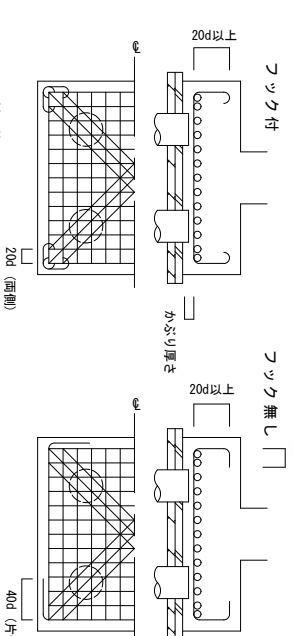


4. 基礎

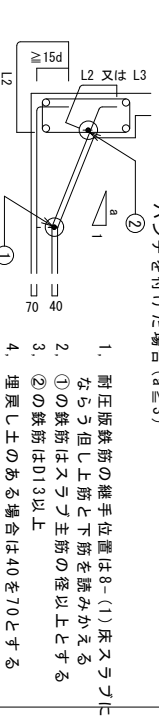
(1) 布基礎



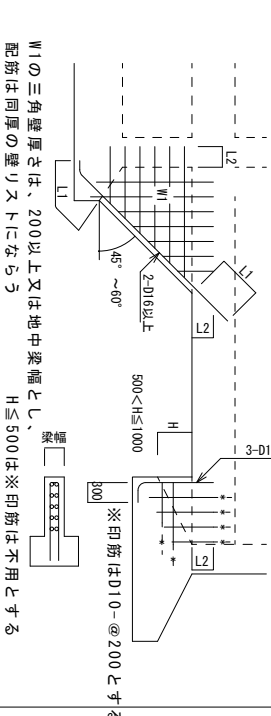
(2) 杭基礎



(3) ベタ基礎

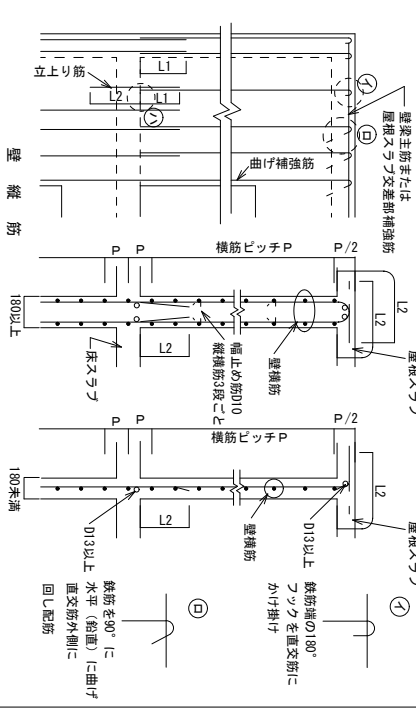


(4) 基礎接合部の補強



5. 耐力壁

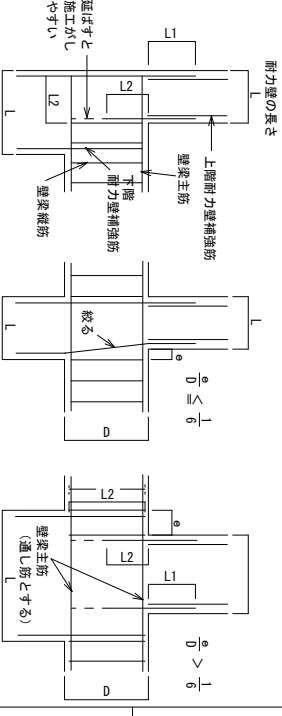
(1) 縦筋・曲げ補強筋・縦補強筋の定着



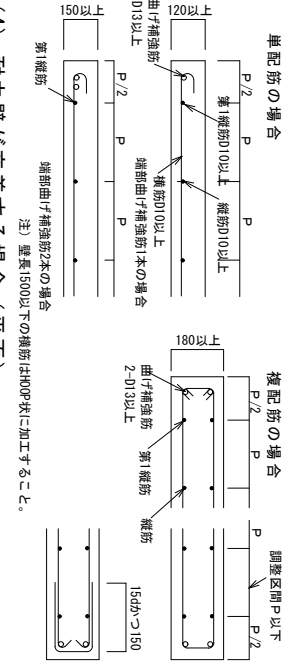
耐力壁と床・屋根スラブ



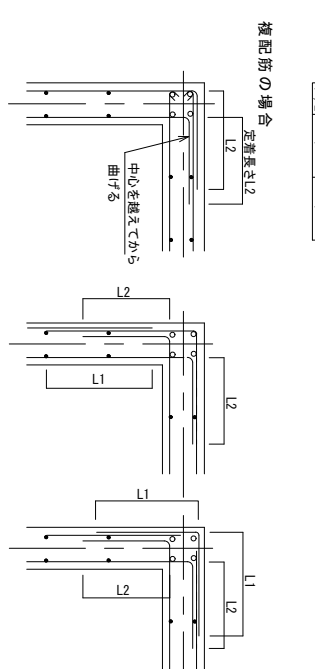
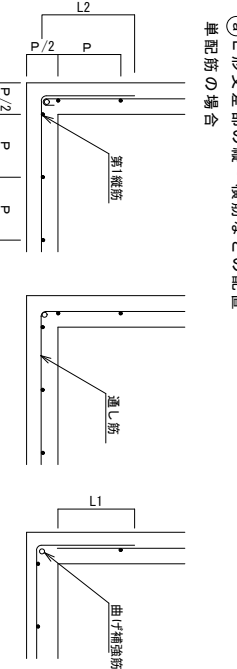
(2) 上・下階耐力壁の各種配筋



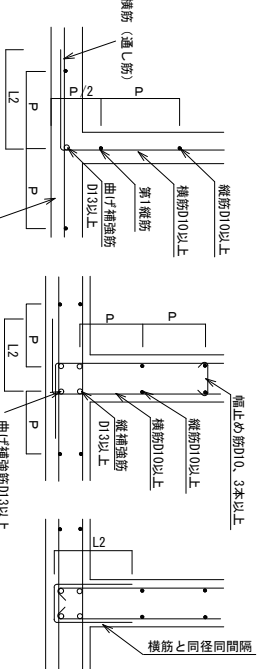
(3) 耐力壁の縦・横筋の配置



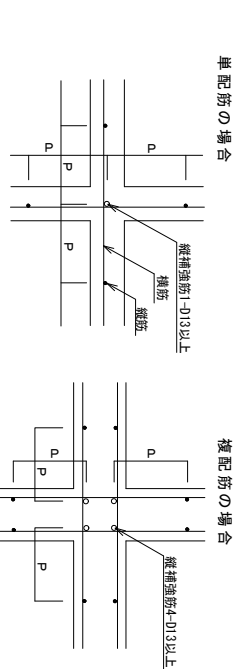
(4) 耐力壁が交差する場合 (平面)



② T形交差部の縦・横筋の配置



③ T形交差部の縦・横筋などの配置



6. 使用可能な鉄筋の最大径 (標準)

構造種別	部位	耐力壁	梁	基礎	スラブ	非耐力壁	欄
壁式鉄筋		がりよう	基礎				
コンクリート造		D22	D22	D25	D16	D16	D16

● 1階床枠組の構成

● 土台の寸法 [第三 第3号]

土台	特記事項
☐ 204 (38mm×89mm)	
☐ 205 (38mm×114mm)	
☐ 206 (38mm×140mm)	
☐ 208 (38mm×184mm)	
☐ 304 (64mm×89mm)	
☐ 306 (64mm×140mm)	
☐ 404 (89mm×89mm)	
☒ 406 (89mm×140mm)	
☐ 408 (89mm×184mm)	
☐	

● 床根太を用いず大引とする場合[第四 第10号]

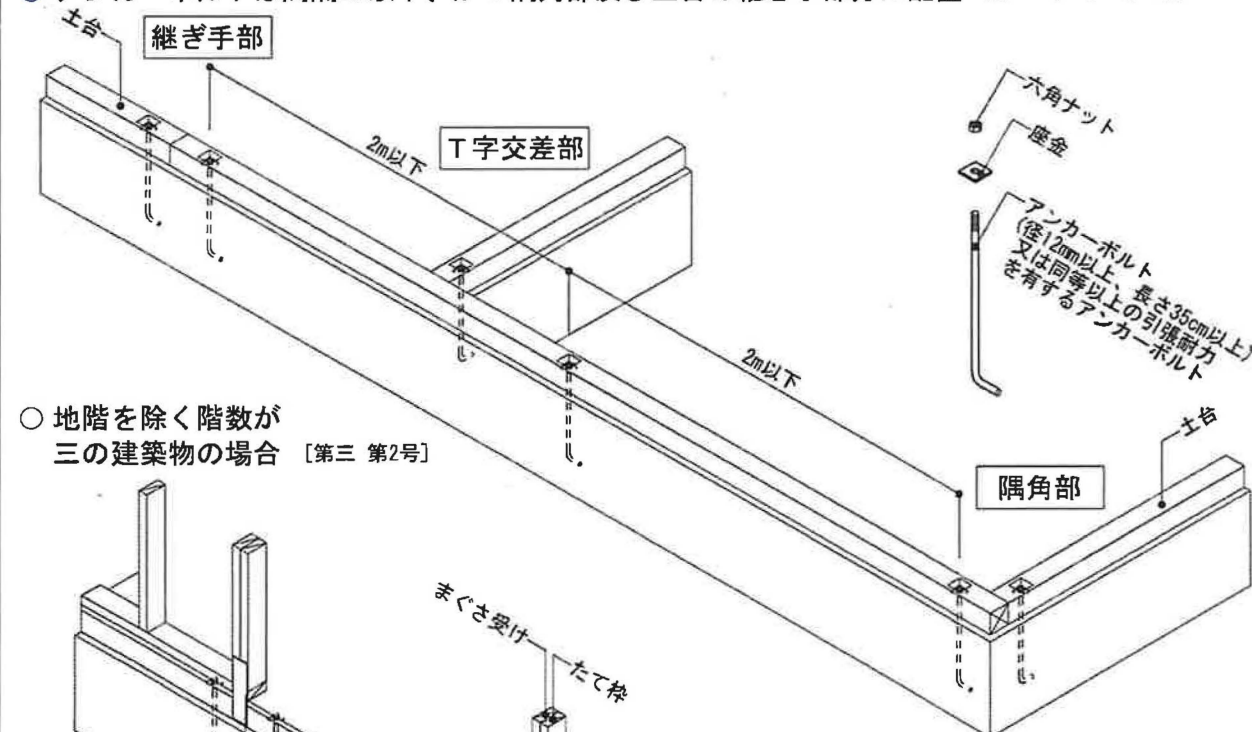
大引	特記事項
☒ 404 (89mm×89mm)	
☐	
☐	
☐	
☐	
☐	

● 床材の種類 [第四 第6号]

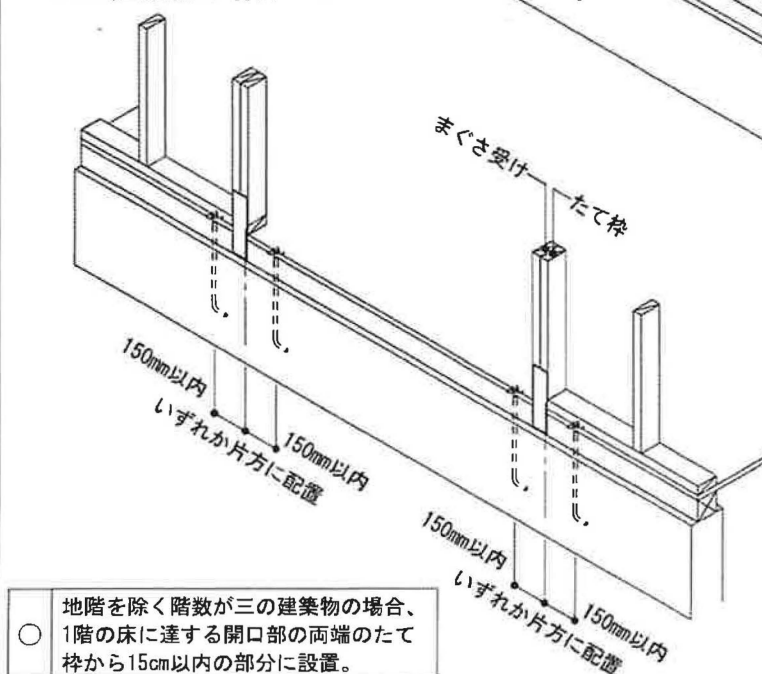
床材	特記事項
☒ 構造用合板 (28) mm	
☐ パーティクルボード () mm	
☐ 構造用パネル () mm	
☐ 硬質木片セメント板 () mm	
☐	
☐	

● 土台の設置・土台の緊結

● アンカーボルトは間隔2m以下、かつ隅角部及び土台の継ぎ手部分に配置 [第三 第2号・第3号]

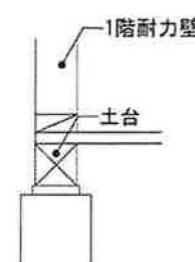


○ 地階を除く階数が三の建築物の場合 [第三 第2号]

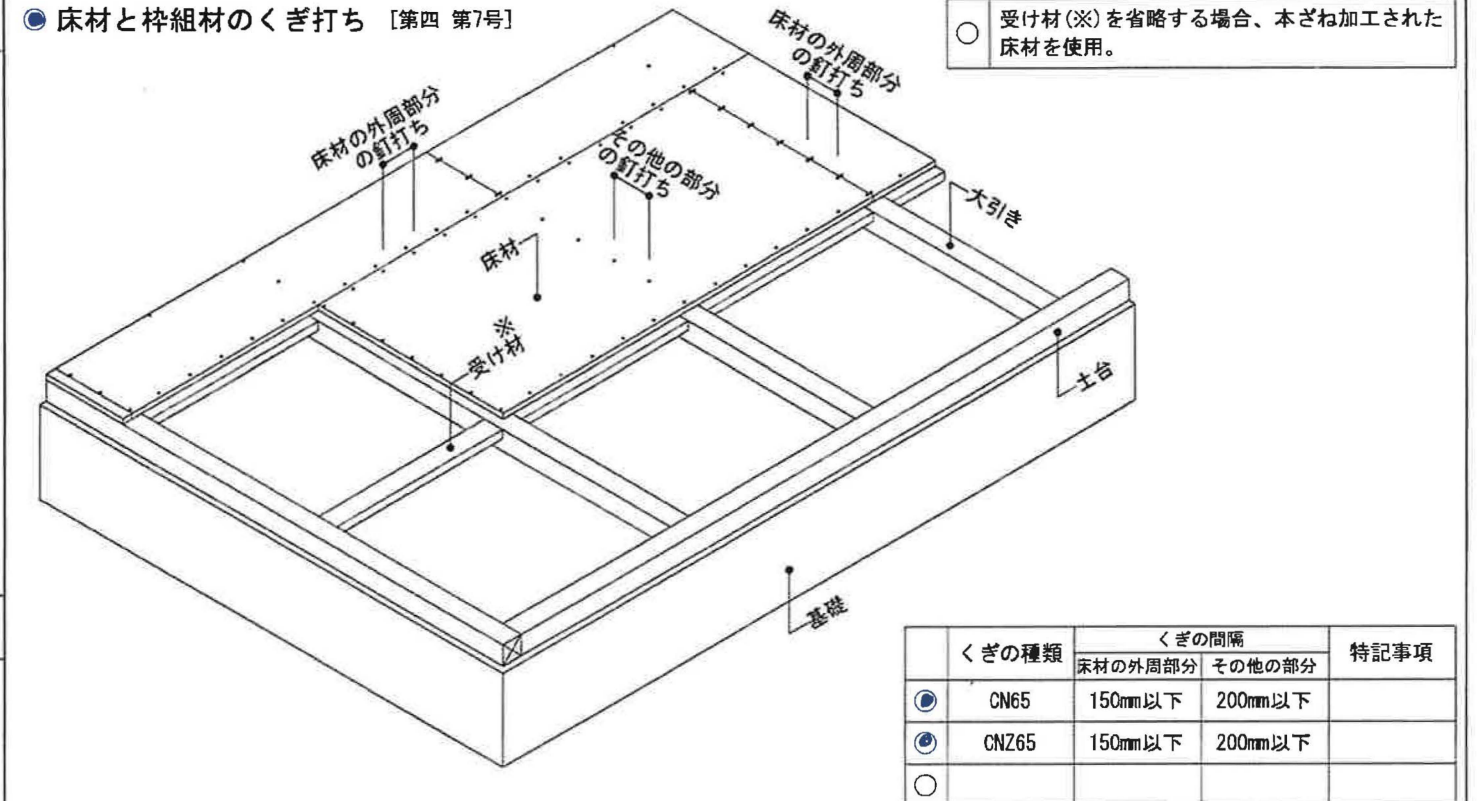


○ 地階を除く階数が三の建築物の場合、1階の床に達する開口部の両端のたて枠から15cm以内の部分に設置。

● 1階耐力壁の下部には土台設置 [第三 第1号]

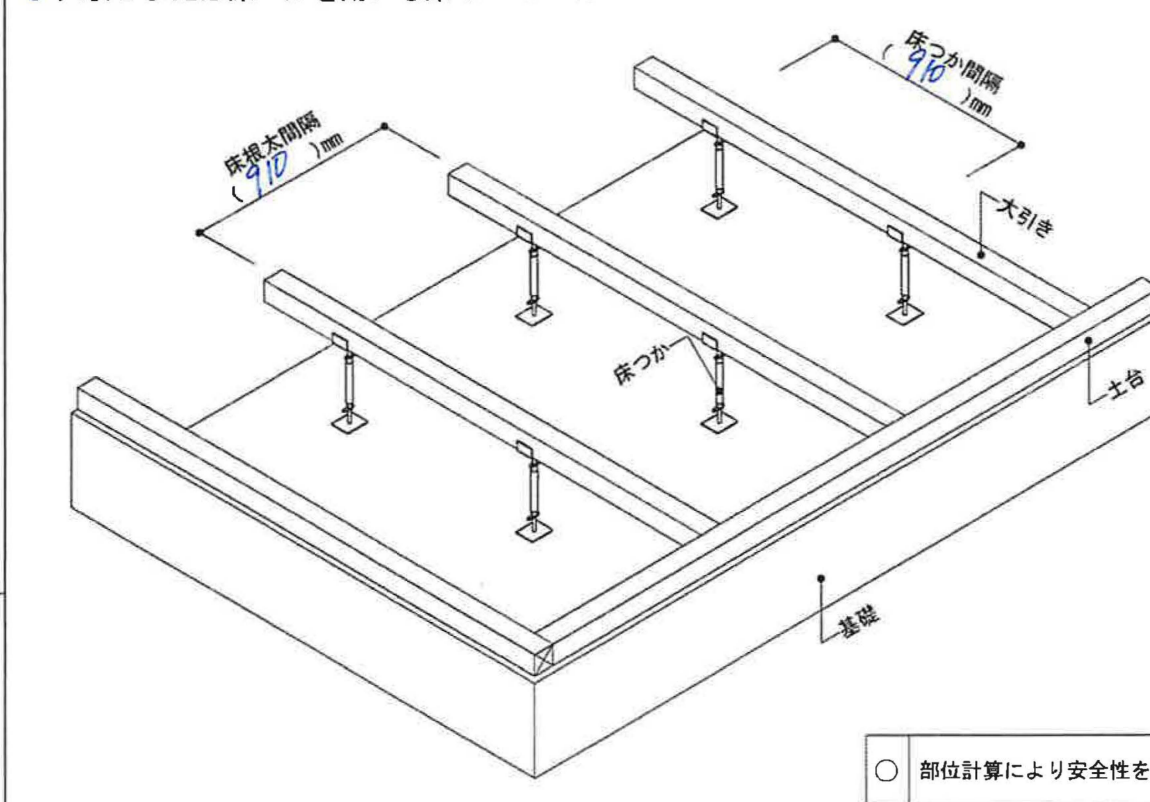


● 床材と枠組材のくぎ打ち [第四 第7号]



くぎの種類	くぎの間隔		特記事項
	床材の外周部分	その他の部分	
☒ CN65	150mm以下	200mm以下	
☒ CNZ65	150mm以下	200mm以下	
☐			

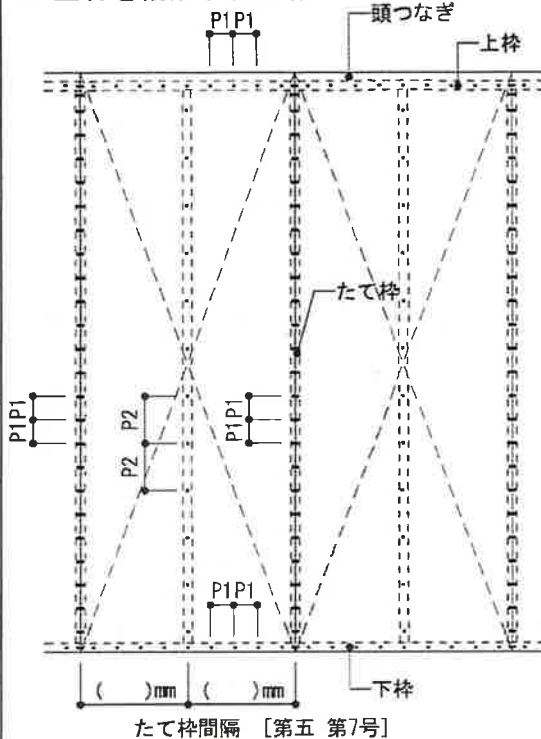
● 大引きまたは床つかを用いる床 [第四 第10号]



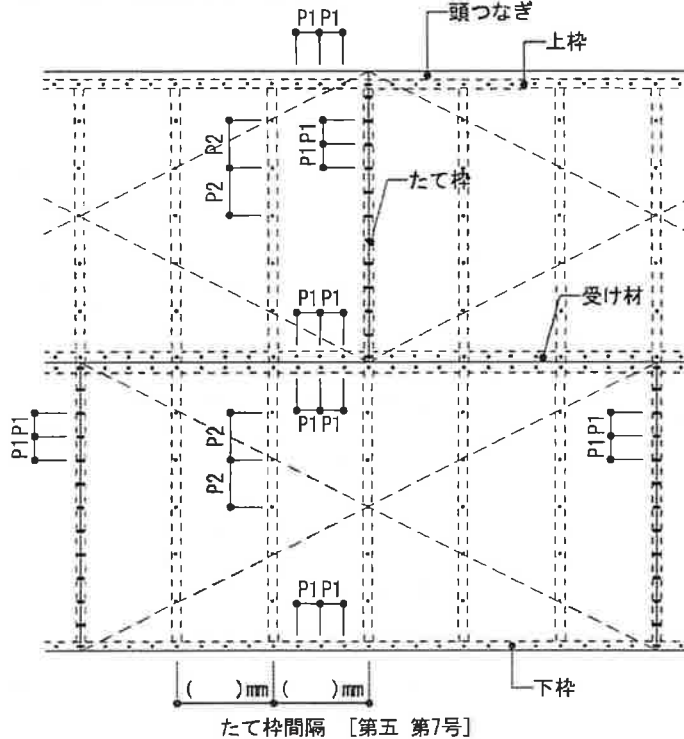
○ 部位計算により安全性を確認

● 耐力壁の構成

● 壁材を縦張りする場合 [第五 第4号]



○ 壁材を横張りする場合 [第五 第4号]



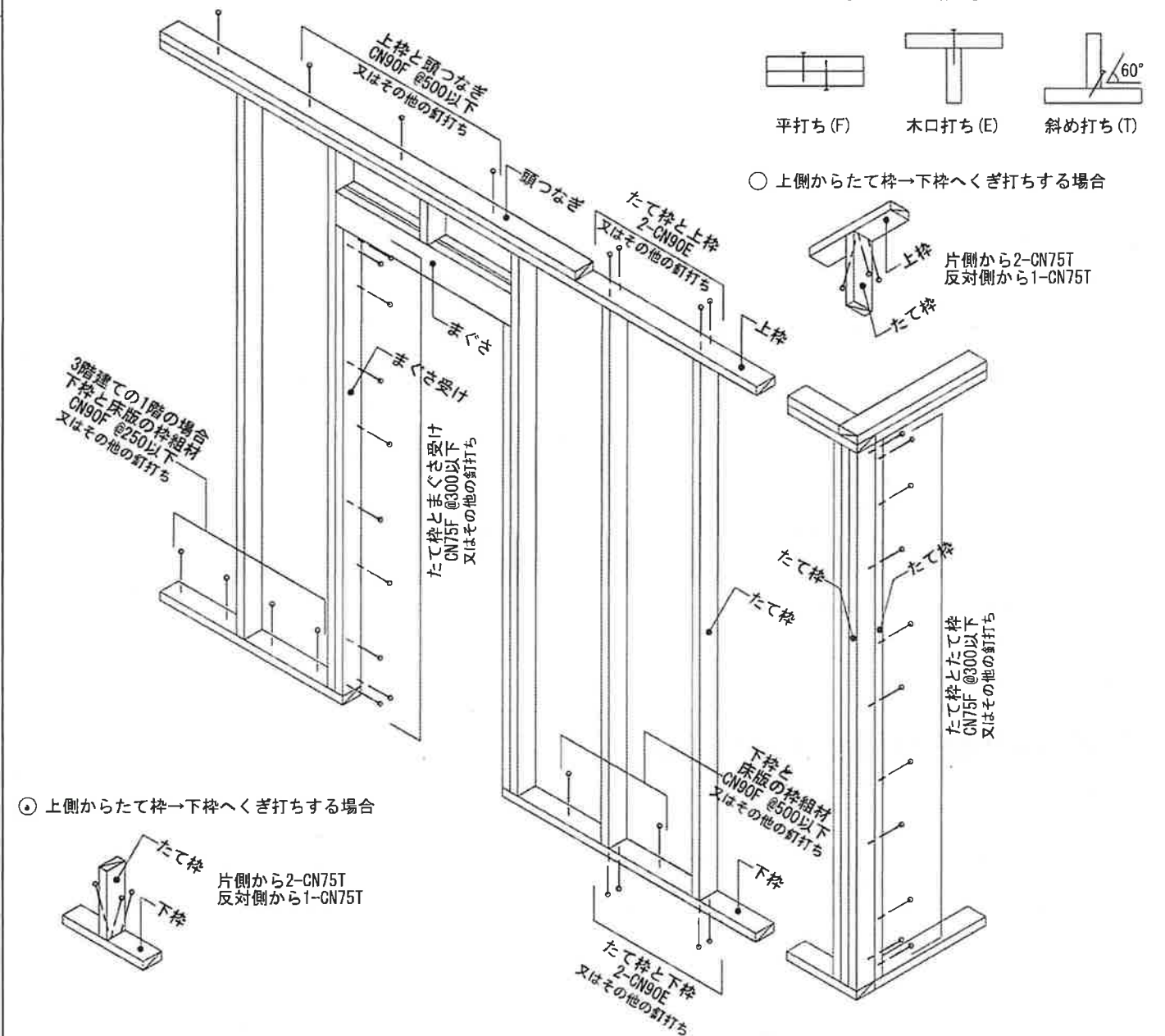
● たて枠・上枠・下枠の寸法 [第五 第3号]

たて枠・上枠・下枠	特記事項	たて枠・上枠・下枠	特記事項	たて枠・上枠・下枠	特記事項
● 204 (38mm×89mm)		○ 304 (64mm×89mm)		○ 408 (89mm×184mm)	
○ 205 (38mm×114mm)		○ 306 (64mm×140mm)			
● 206 (38mm×140mm)		○ 404 (89mm×89mm)			
○ 208 (38mm×184mm)		○ 406 (89mm×140mm)			

● 耐力壁のくぎ打ち [第五 第4号]

壁材の種類	厚さ	くぎの種類	くぎの間隔		壁倍率	特記事項
			壁材の外周部分:P1	その他の部分:P2		
● 構造用合板	9mm	CN65・CNZ65	50・75・100mm以下	200mm以下	3.0	
○ 構造用合板		CN50・CNZ50	50・100mm以下	200mm以下		
● 構造用パネル	9mm	CN65・CNZ65	50・100mm以下	200mm以下		
○ 構造用パネル		CN50・CNZ50	50・100mm以下	200mm以下	3.0	OSB
○ 構造用パーティクルボード		CN50・CNZ50	50・100mm以下	200mm以下		
○ パーティクルボード		CN50・CNZ50	100mm以下	200mm以下		
○ 構造用MDF		CN50・CNZ50	50・100mm以下	200mm以下		
○ MDF		CN50・CNZ50	100mm以下	200mm以下		
○ ハードボード		CN50・CNZ50	100mm以下	200mm以下		
○ 硬質木片セメント板		CN50・CNZ50	100mm以下	200mm以下		
○ 強化せっこうボード		GNF40・SFN45・WSN・DTSN	100mm以下	200mm以下		
● せっこうボード	12.5mm	GNF40・SFN45・WSN・DTSN	100mm以下	200mm以下	1.0	
○						
○						
○						

○ 耐力壁各部材のくぎ打ち [第五 第12号・第14号]



○ くぎの打ち方と記号



○ 上側からたて枠→下枠へくぎ打ちする場合



○ 上側からたて枠→下枠へくぎ打ちする場合



● 壁枠組のくぎ打ち [第五 第14号]

● たて枠と上枠

くぎの種類と本数	特記事項
● 2-CN90E	
○ 2-CNZ90E	
○ 3-CN75T	
○ 3-CNZ75T	
○ 3-BN90T	
○ 3-CN65T	
○ 3-CNZ65T	
○	
○	
○	

● たて枠と下枠

くぎの種類と本数	特記事項
● 2-CN90E	
○ 2-CNZ90E	
○ 3-CN75T	
○ 3-CNZ75T	
○ 3-BN90T	
○ 3-CN65T	
○ 3-CNZ65T	
○	
○	
○	

● 下枠と床版の枠組材

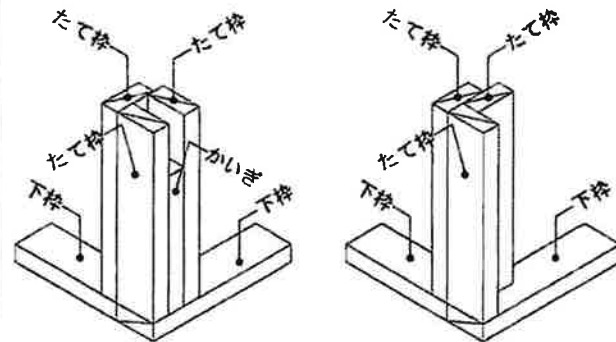
くぎの種類	くぎの間隔	特記事項
● CN90F	500mm以下	
○ CNZ90F	500mm以下	
○		
○ 3階建ての建物の1階の場合の下枠と床版の枠組材		
くぎの種類	くぎの間隔	特記事項
○ CN90F	250mm以下	
○ CNZ90F	250mm以下	
○		

● 上枠と頭つなぎ

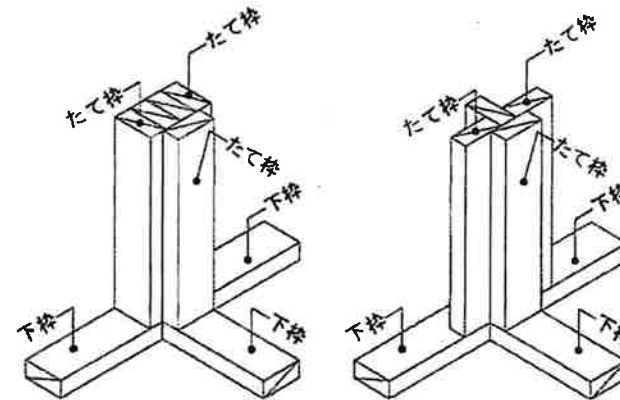
くぎの種類	くぎの間隔	特記事項
● CN90F	500mm以下	
○ CNZ90F	500mm以下	
○		
● たて枠とたて枠・たて枠とまぐさ受け		
くぎの種類	くぎの間隔	特記事項
● CN75F	300mm以下	
○ CNZ75F	300mm以下	
○		

⑥ 隅角部・交差部のたて枠構成例 [第五 第8号]

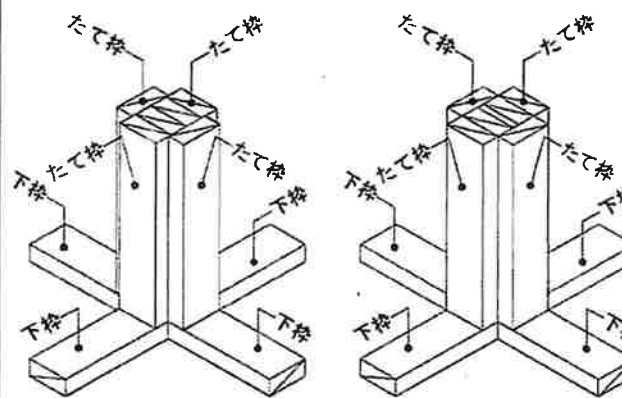
⑥ 隅角部(204又は304たて枠3本以上)



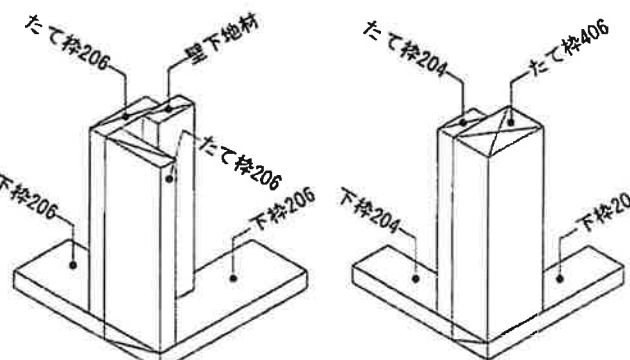
⑥ T字型交差部(204又は304たて枠3本以上)



⑥ +字型交差部(204又は304たて枠3本以上)

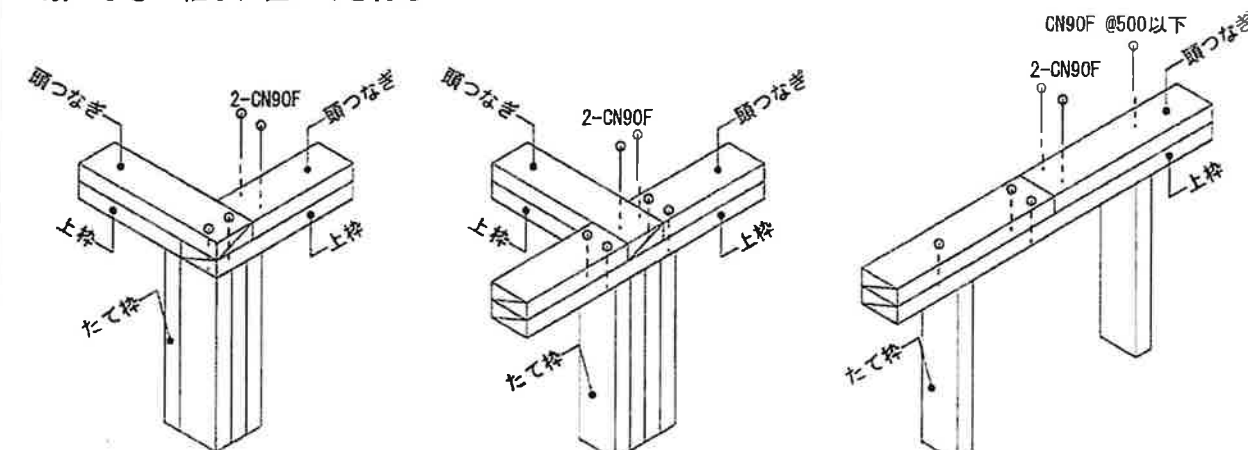


○ 隅角部(その他)



⑥ 耐力壁上部の頭つなぎ取付 [第五 第10号]

⑥ 頭つなぎの継手位置とくぎ打ち



⑥ 頭つなぎ突き付け部

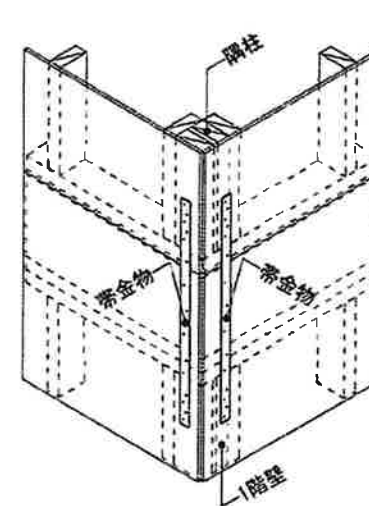
くぎの種類と本数	特記事項
⑥ 2-CN90F	
⑥ 2-CN90F	
○	

⑥ 上枠と頭つなぎ

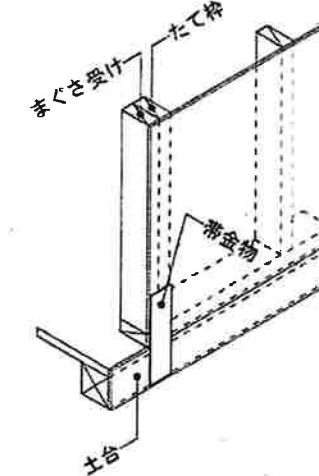
くぎの種類	くぎの間隔	特記事項
⑥ CN90F	500mm以下	
⑥ CN90F	500mm以下	
○		

⑥ 隅角部・開口両端部の金物施工 [第五 第9号]

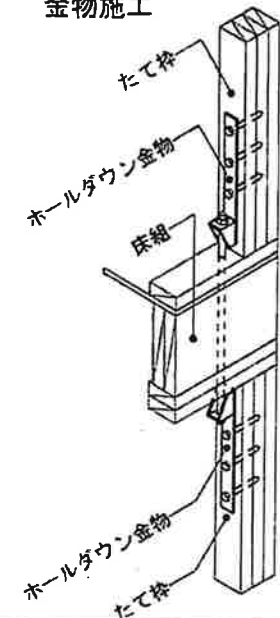
⑥ 帯金物による隅角部金物施工



○ 帯金物による開口端部金物施工



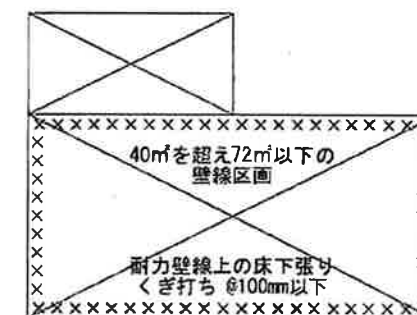
○ ホールダウン金物による金物施工



- ⑥ Cマーク表示金物
- 性能を確認されたメーカー金物

⑥ 40㎡を超え72㎡以下の壁線区画補強 [第五 第5号]

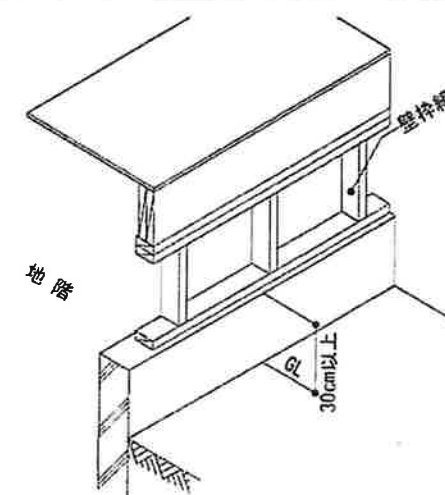
⑥ 40㎡を超え72㎡以下の壁線区画補強例



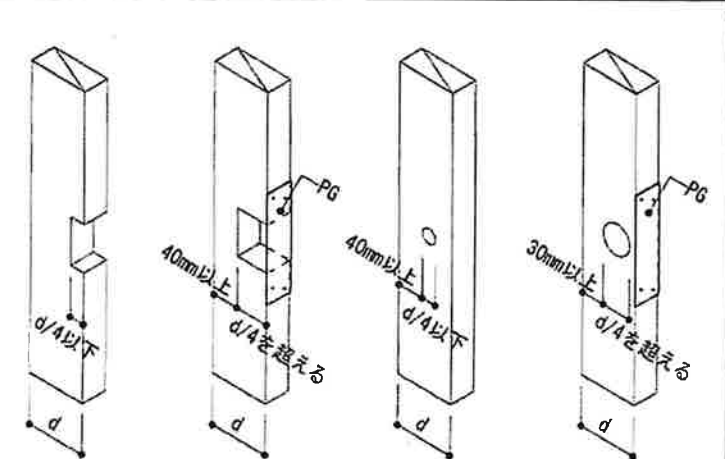
○ その他の補強とする場合

補強措置			
床用現場接着剤を併用する。			
緊結する部分	くぎの種類	くぎの間隔	特記事項
⑥ 耐力壁上部の床下張り	CN50	150mm以下	耐力壁上部
⑥ 耐力壁下部の床下張り	CN50	150mm以下	耐力壁下部
○			

○ 一部枠組壁工法による地階の壁 [第五 第15号]



⑥ たて枠の欠き込み・穴あけの制限 [第五 第3号]



◎ 小屋組の構成

◎ たるきの寸法 [第七 第1号]

	たるき	特記事項
☐	204 (38mm×89mm)	
☐	205 (38mm×114mm)	
☐	206 (38mm×140mm)	
☐	208 (38mm×184mm)	
☒	210 (38mm×235mm)	
☐	212 (38mm×286mm)	
☐	304 (64mm×89mm)	
☐	306 (64mm×140mm)	
☐		

◎ 天井根太の寸法 [第七 第1号]

	天井根太	特記事項
☒	204 (38mm×89mm)	
☐	205 (38mm×114mm)	
☐	206 (38mm×140mm)	
☐	208 (38mm×184mm)	
☐	210 (38mm×235mm)	
☐	212 (38mm×286mm)	
☐	304 (64mm×89mm)	
☐	306 (64mm×140mm)	
☐		

○ 屋根下地材の種類 [第七 第8号]

	屋根下地材	特記事項
☐	構造用合板 ()mm	
☐	パーティクルボード ()mm	
☐	構造用パネル ()mm	
☐	硬質木片セメント板 ()mm	
☐		
☐		

◎ 屋根ばりの寸法 [第七 第12号]

	屋根ばり	特記事項
☒	90×235	
☐		

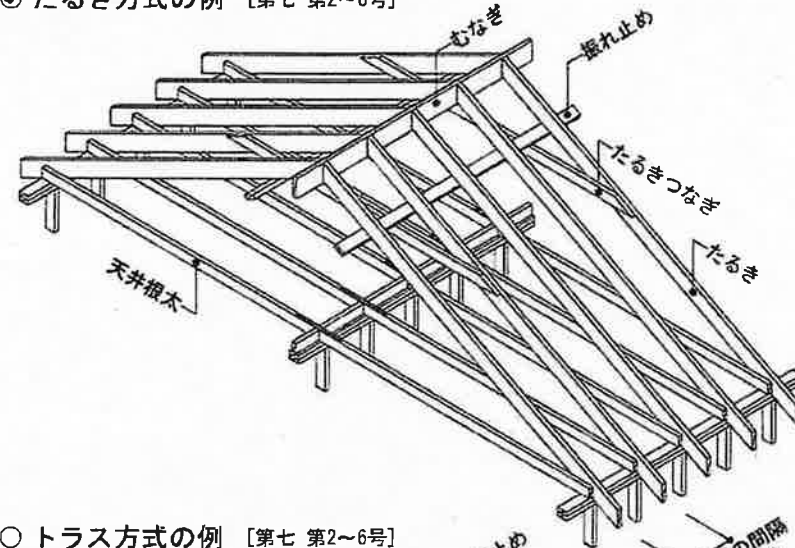
○ 天井ばりの寸法 [第七 第12号]

	天井ばり	特記事項
☐		
☐		

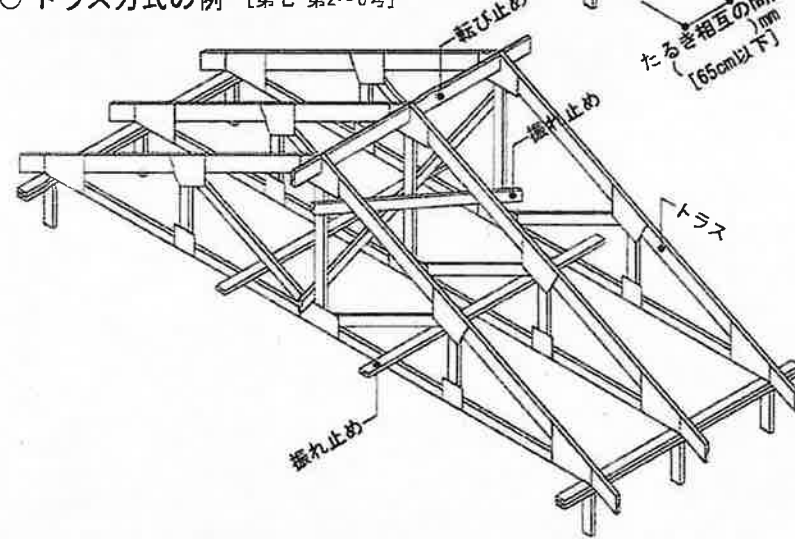
○ 東建て方式・屋根ばり方式の場合 [第七 第12号]

○ 部位計算により安全性を確認

◎ たるき方式の例 [第七 第2～6号]

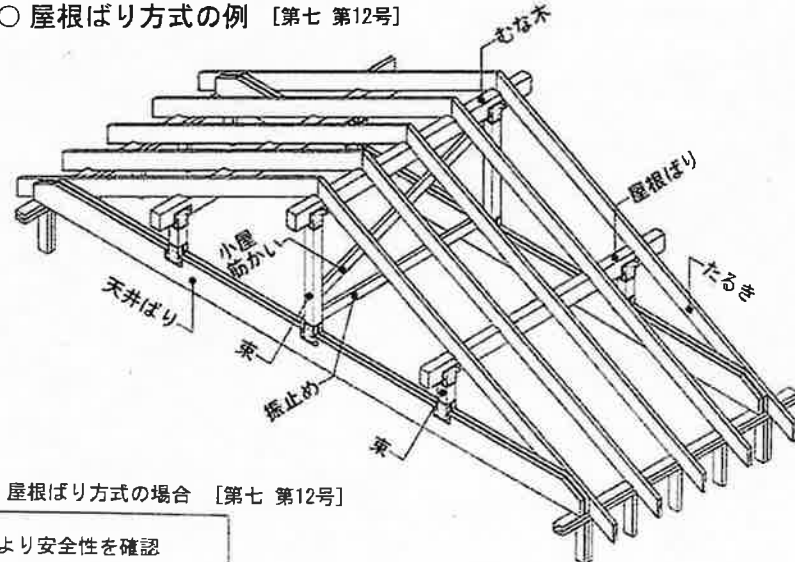


○ トラス方式の例 [第七 第2～6号]

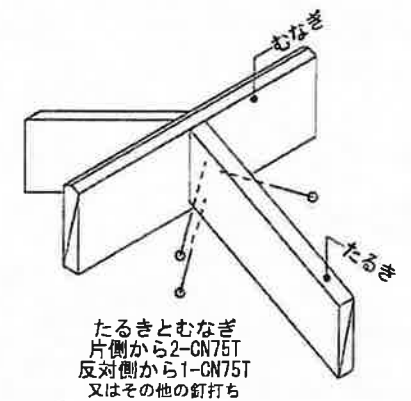
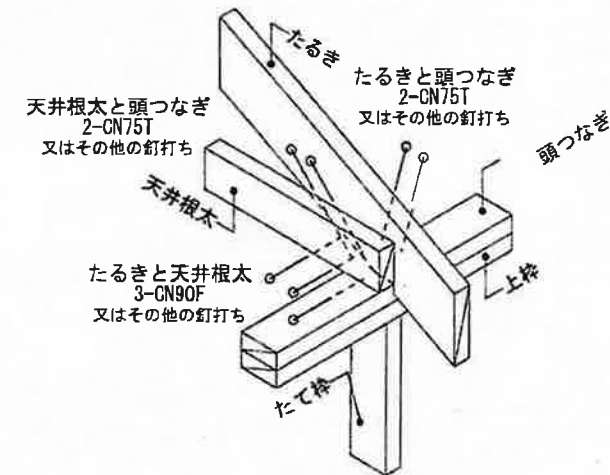


○ 東建て方式の例 [第七 第12号]

○ 屋根ばり方式の例 [第七 第12号]



◎ 小屋組各部材のくぎ打ち [第七 第9号]



◎ たるきと天井根太

くぎの種類と本数	特記事項
☒ 3-CN90F	
☐ 3-CN290F	
☐ 4-CN75F	
☐ 4-CN275F	
☐	

◎ たるきと頭つなぎ・天井根太と頭つなぎ

くぎの種類と本数	特記事項
☒ 2-CN75T	
☐ 2-CN275T	
☐ 3-CN65T	
☐ 3-CN265T	
☐	

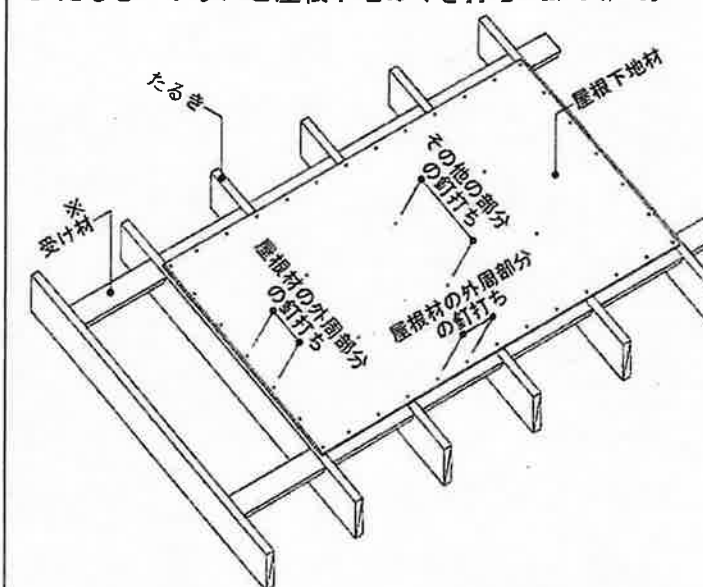
◎ トラスと頭つなぎ

くぎの種類と本数	特記事項
☒ 2-CN75T	
☐ 2-CN275T	
☐ 3-CN65T	
☐ 3-CN265T	
☐	

◎ たるきとむなぎ

くぎの種類と本数	特記事項
☒ 3-CN75T	
☐ 3-CN275T	
☐	
☐	
☐	

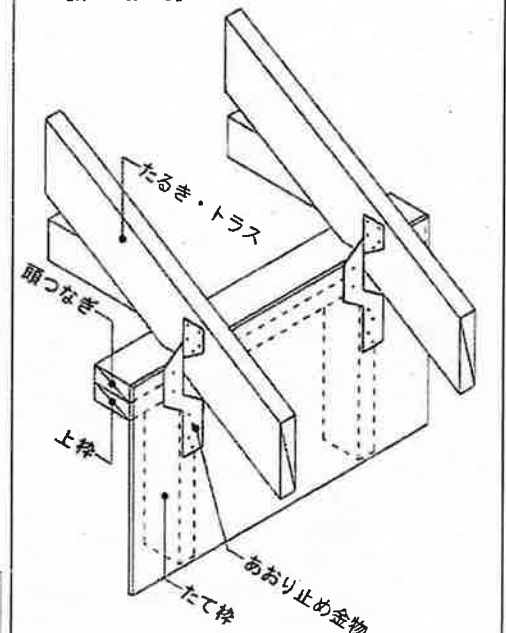
◎ たるき・トラスと屋根下地のくぎ打ち [第七 第9号]



◎ 受け材(※)を省略する場合、本ざね加工された屋根材を使用。

くぎの種類	くぎの間隔		特記事項
	床材の外周部分	その他の部分	
☒ CN50	150mm以下	300mm以下	
☐ CN250	150mm以下	300mm以下	
☐			

◎ たるき・トラスと耐力壁の緊結 [第七 第5号]



☒ Cマーク表示金物
☐ 性能を確認されたメーカー金物

樁組壁工法 構造詳細図 07

○材料 [第二]

[illegible]

[2024年 7月28日更新] 系無断転載



Wald 株式会社 ヴァルト

〒381-0022長野市大字大豆島5215-1TEL026-268-4355
 (株)ヴァルト建築士事務所 登録(長野)B 第 79071 号
 2級建築士登録 第13643号 小野 治

date

project name

社会福祉法人まるこ福祉会 とんぼハウス新築工事

sheet no.

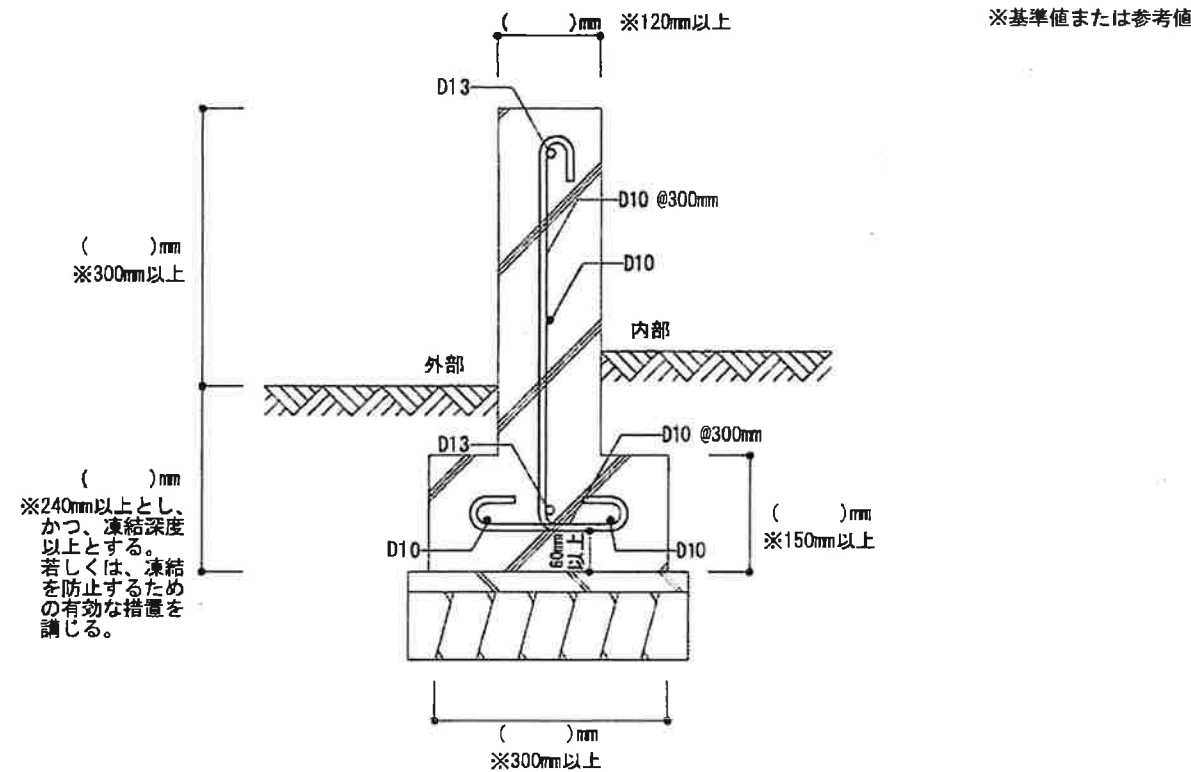
scale

	title
--	-------

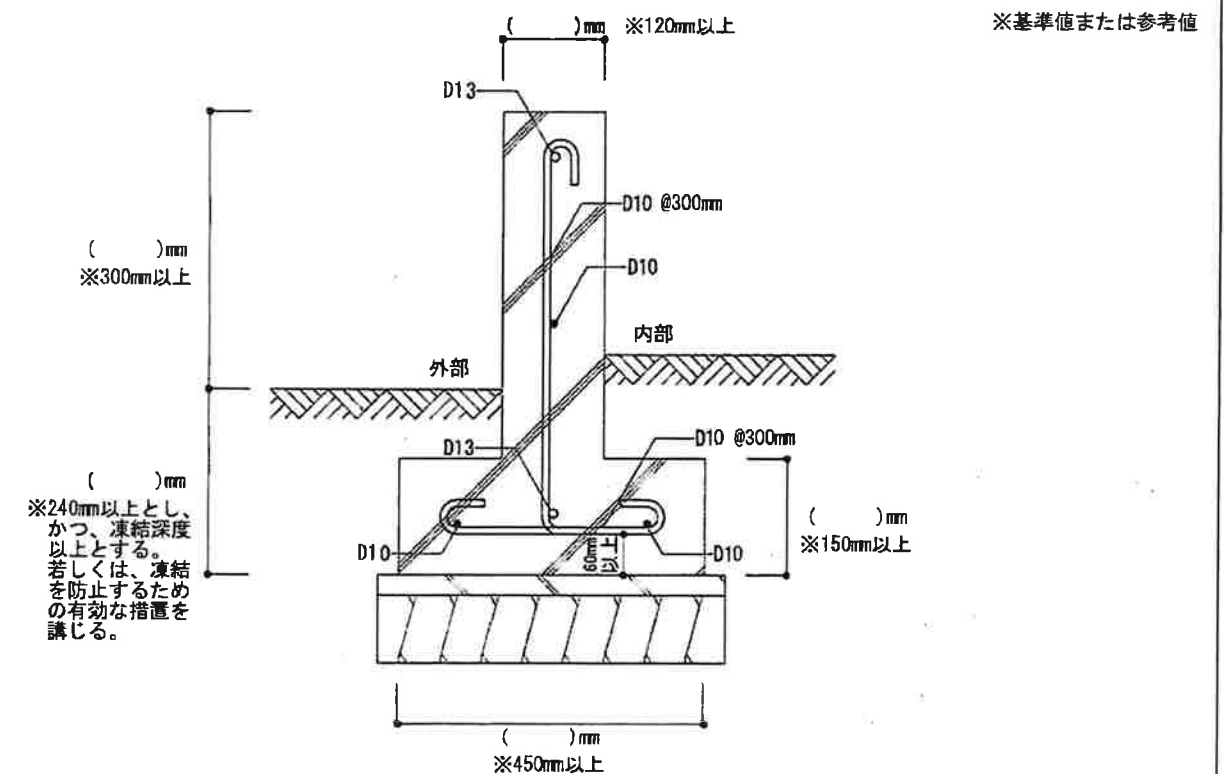
構造詳細図07

S-11

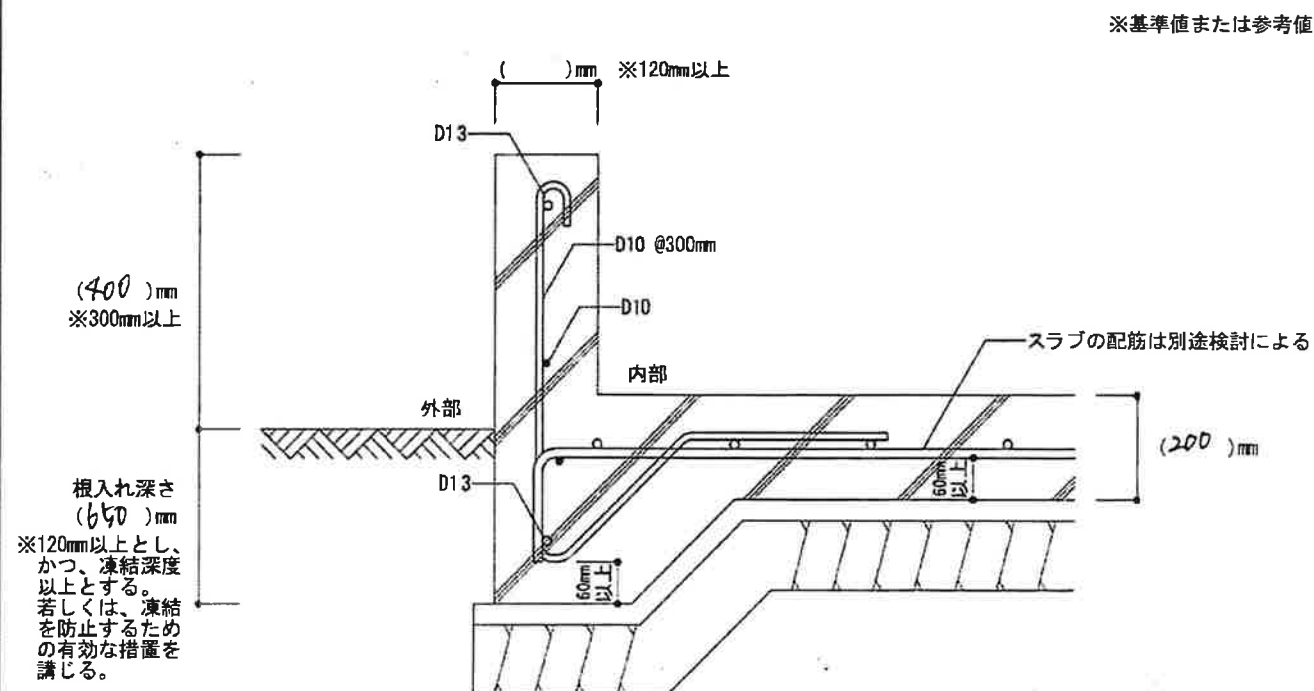
○ 布基礎の取合い(平屋建の場合)



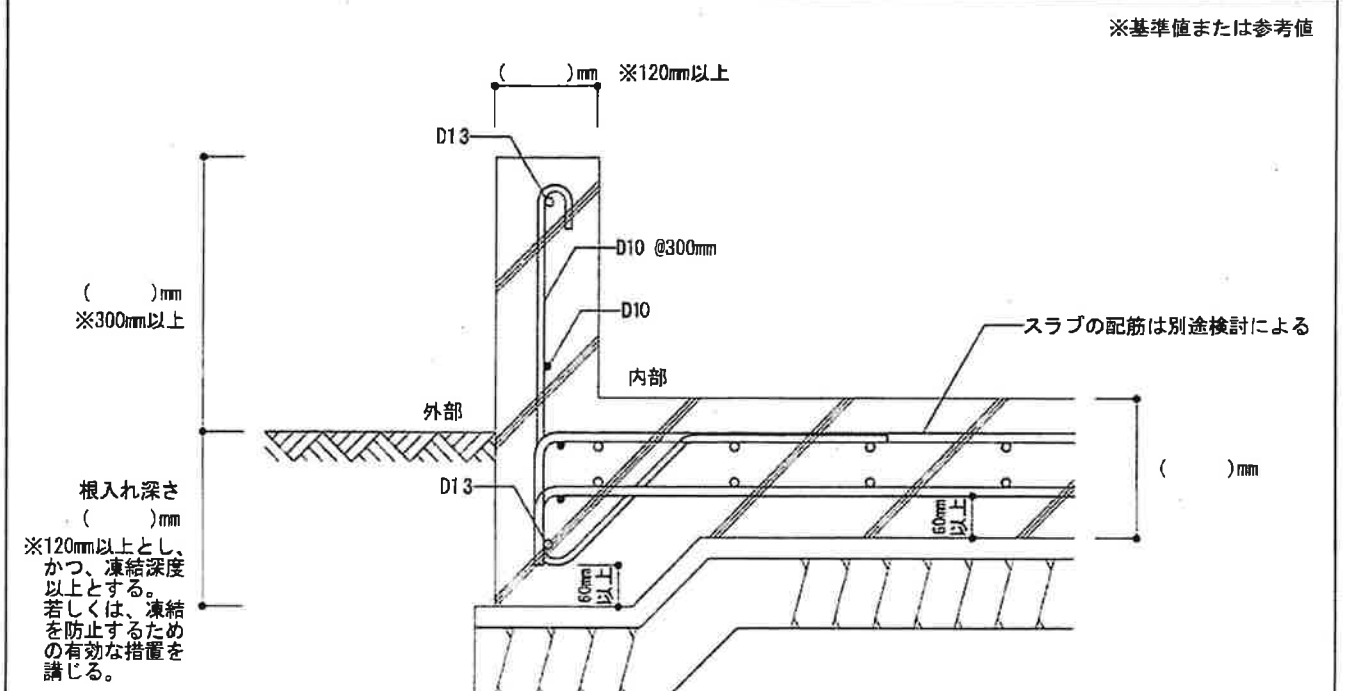
○ 布基礎の取合い(2階建の場合)



● べた基礎の取合い(シングル配筋)

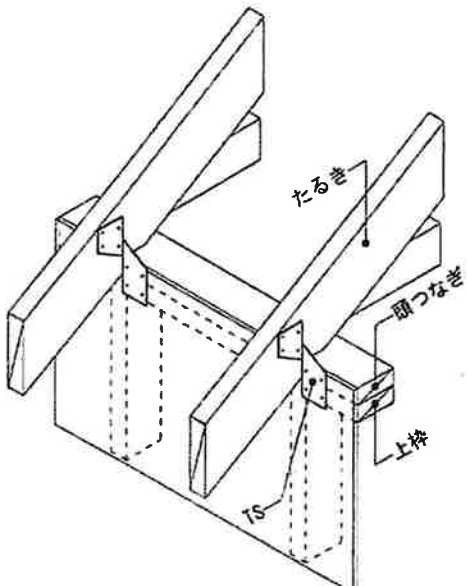
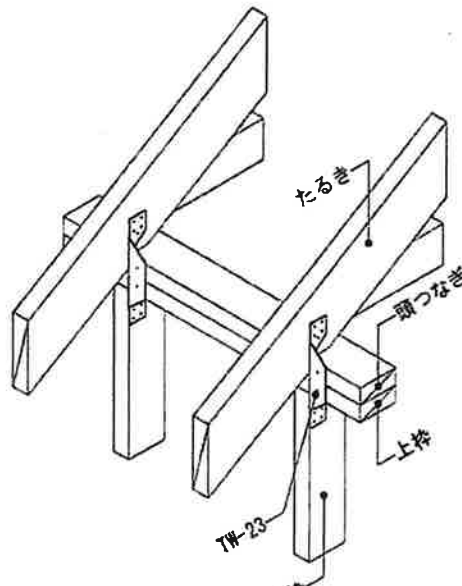
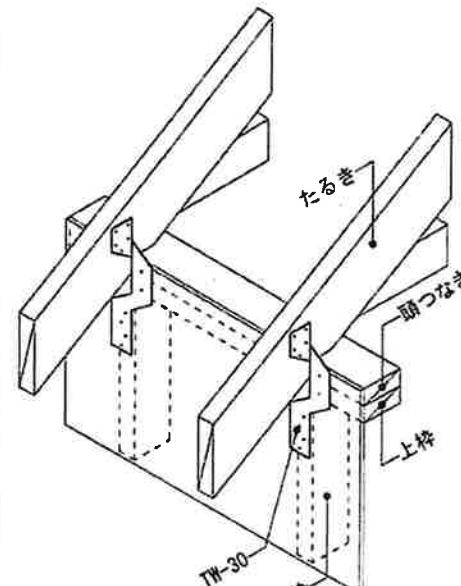
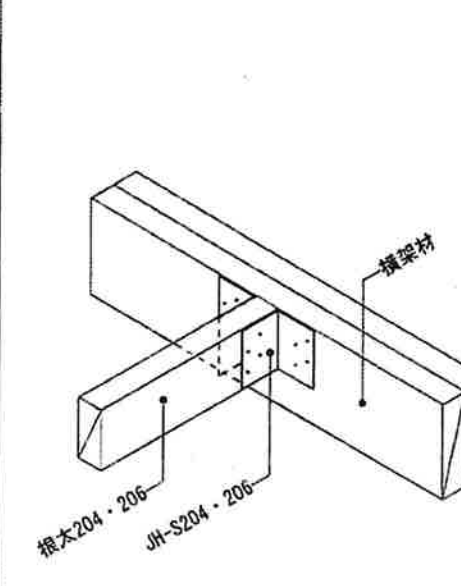
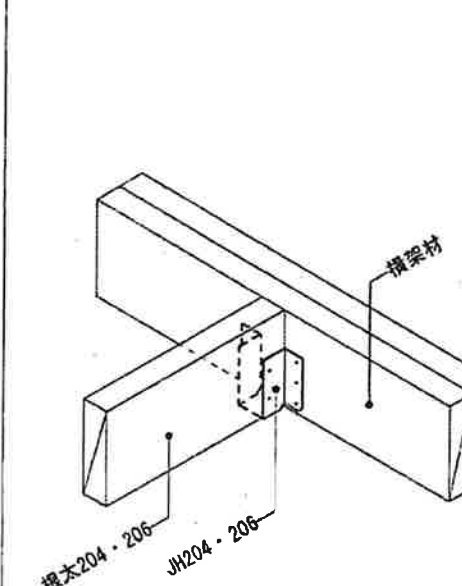
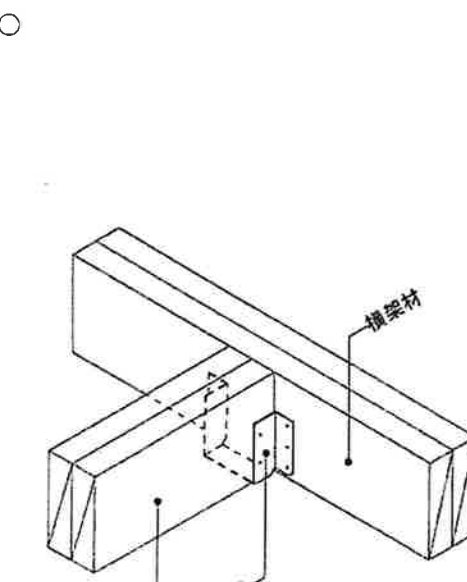
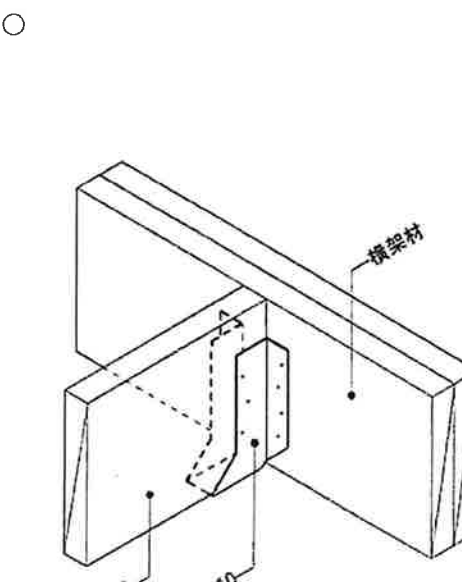
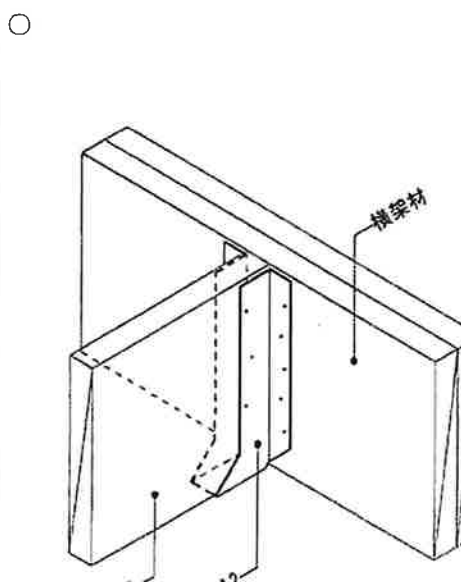
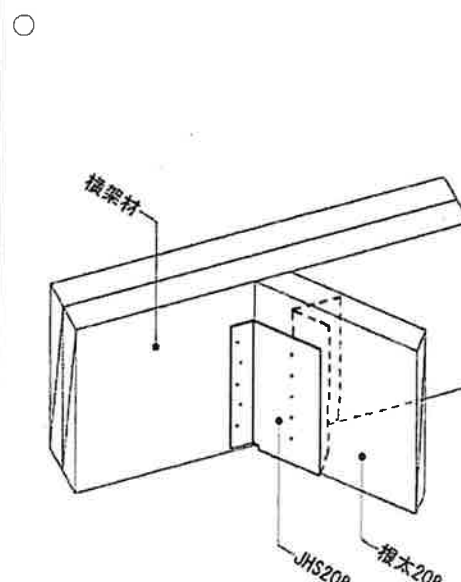
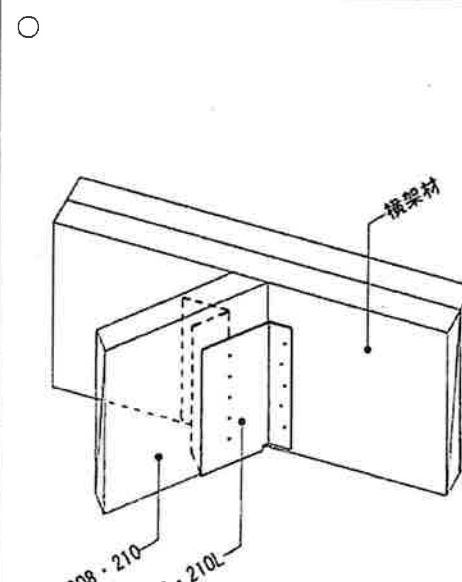


○ べた基礎の取合い(ダブル配筋)

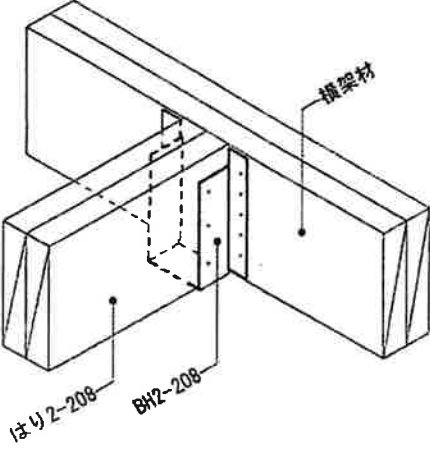
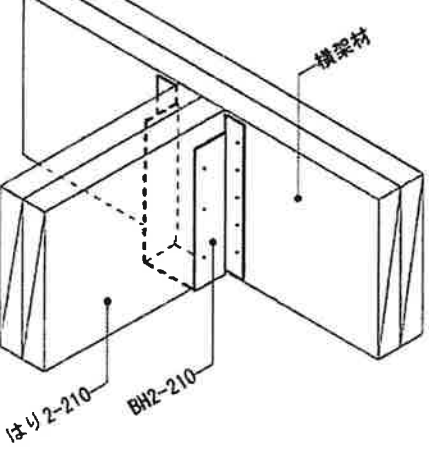
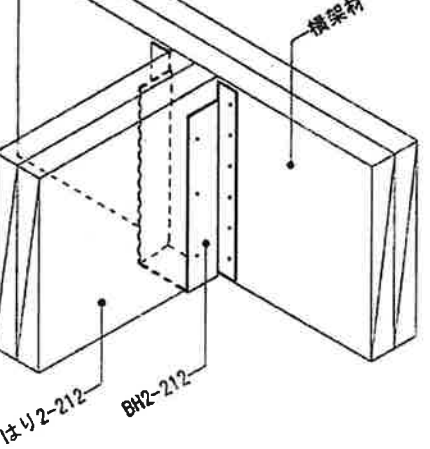
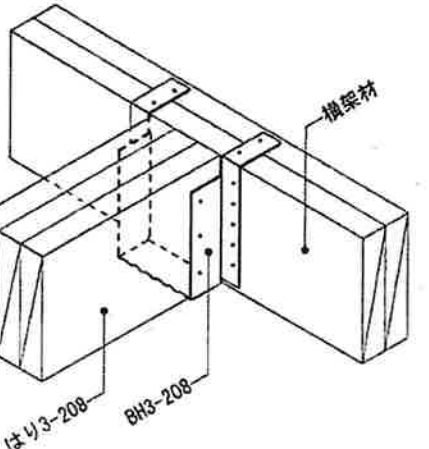
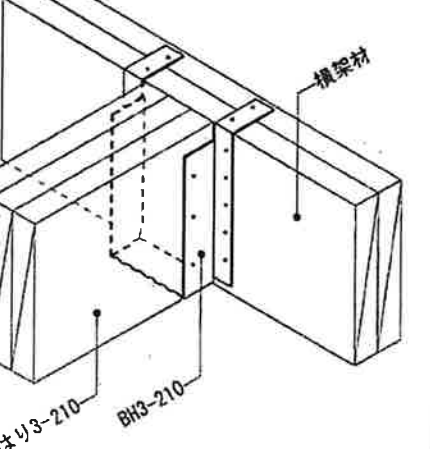
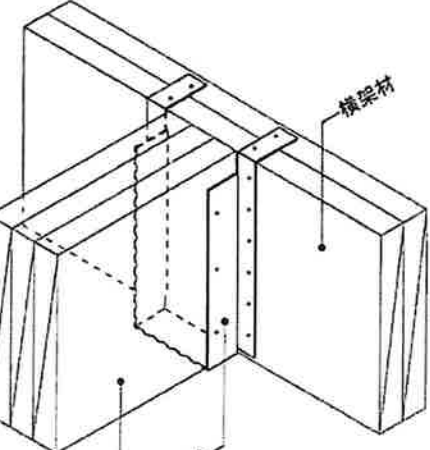
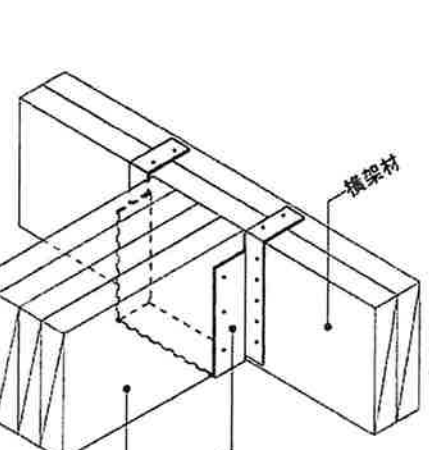
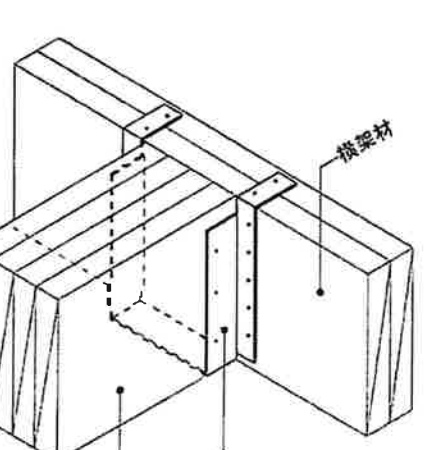
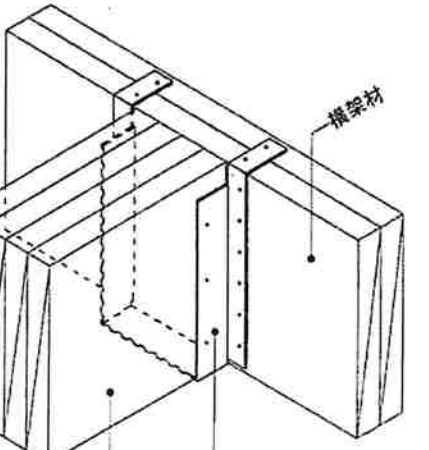
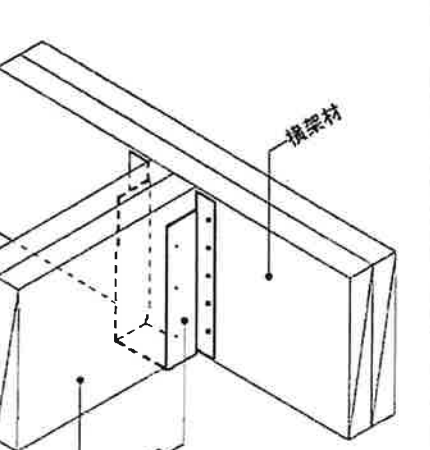


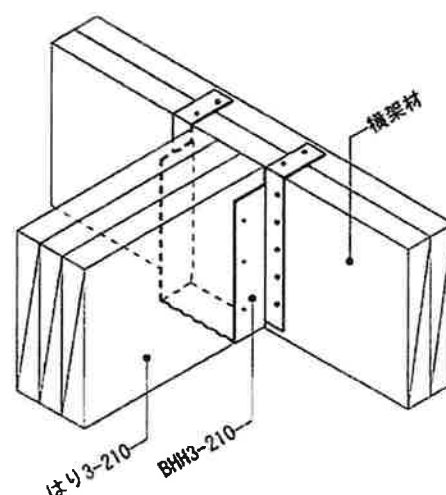
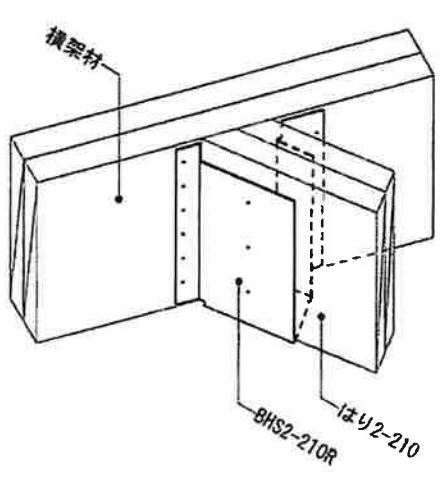
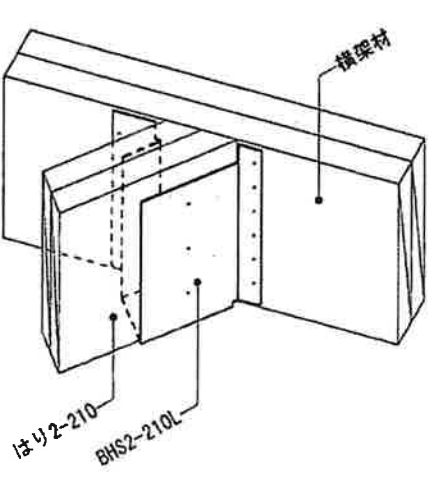
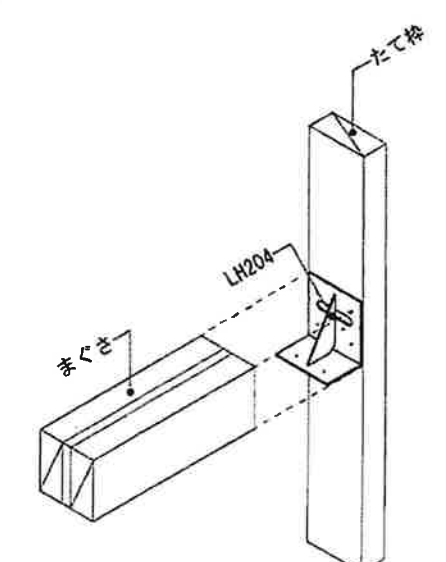
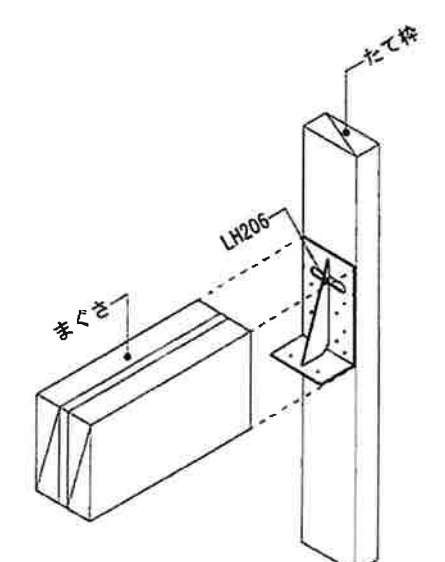
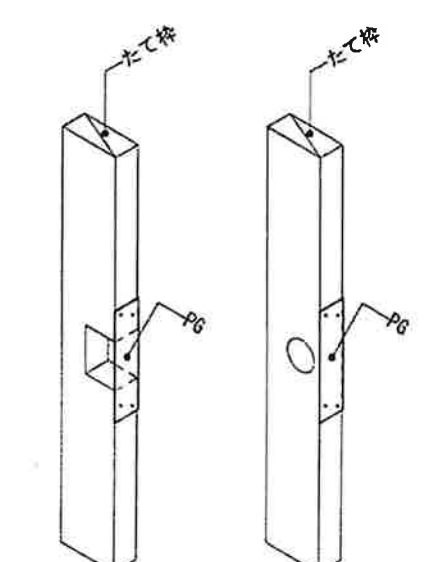
注) コンクリートと鉄筋が一体となって圧縮力・引張力に抵抗させるためフックなどを設ける。

接合金物納まり例(1)						枠組壁工法 接合金物 01	
柱頭金物 PC	はりに 6-ZN65 柱に 6-ZN65	柱頭金物 GL-PC	はりに 8-ZN65 柱に 8-ZN65	帯金物 S-45	太めくぎ 6-ZN40	帯金物 S-50	太めくぎ 12-ZN65
柱とはりの緊結		支持柱頭部とはりの緊結		根太、上枠又は頭つなぎの緊結 棟部たるきの相互の緊結		壁と床枠組の緊結 両面開口を設けたときの隅柱、側壁のまぐさ受け 及びたて枠と1階壁との緊結等	
帯金物 S-65	太めくぎ 15-ZN65			帯金物 S-90	太めくぎ 12-ZN40	帯金物 SW-67	太めくぎ 26-ZN65
両面開口を設けたときの隅柱と1階壁との接合 両面開口を設けたときの側壁のまぐさ受け及びたて枠と1階壁との緊結等		オーバーハング等の隅角部の緊結 天井根太をはりに取付ける場合の天井根太同士の緊結		両面開口を設けたときの側壁のまぐさ受け及びたて枠 と土台の緊結		土間コンクリート床スラブで構成し両面開口を設けた 場合の隅柱及びたて枠並びにまぐさ受けと土台の緊結	

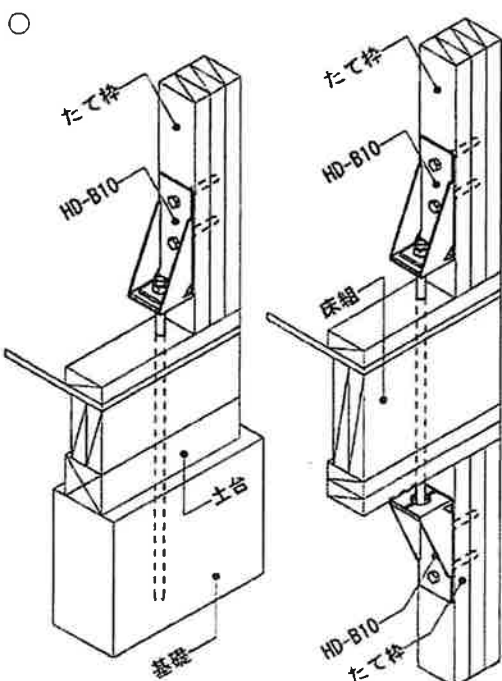
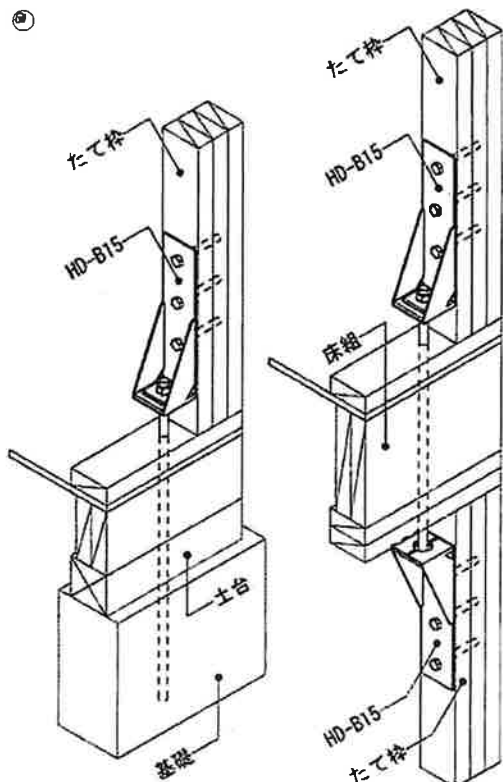
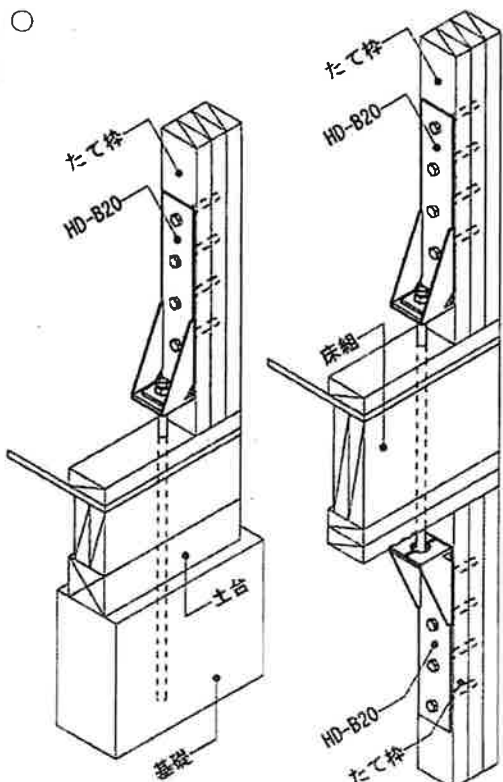
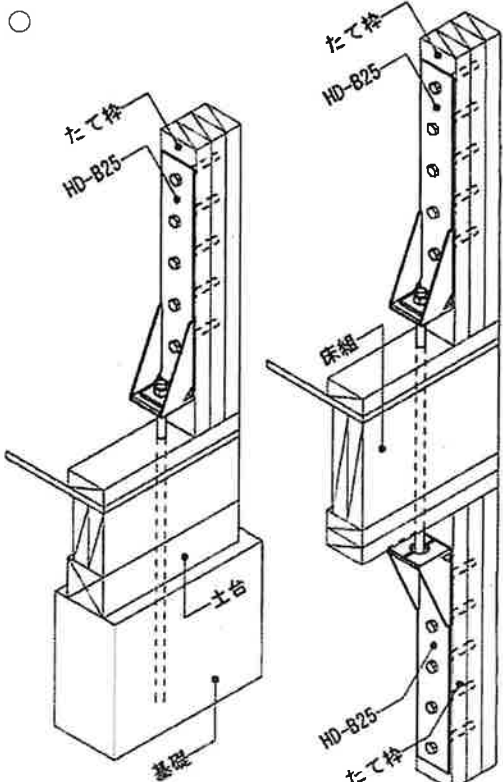
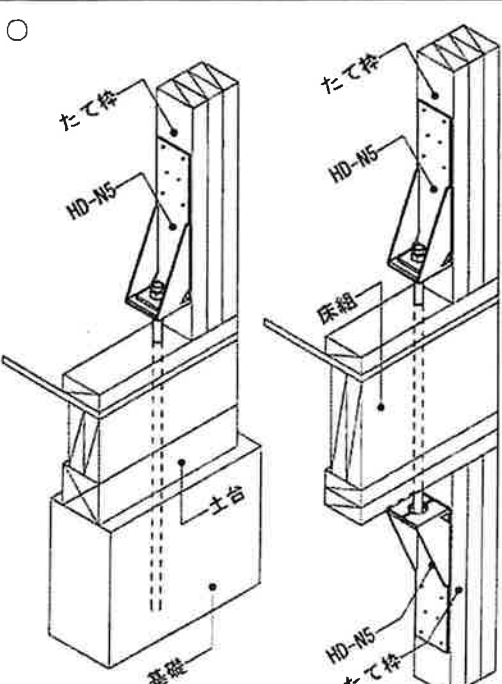
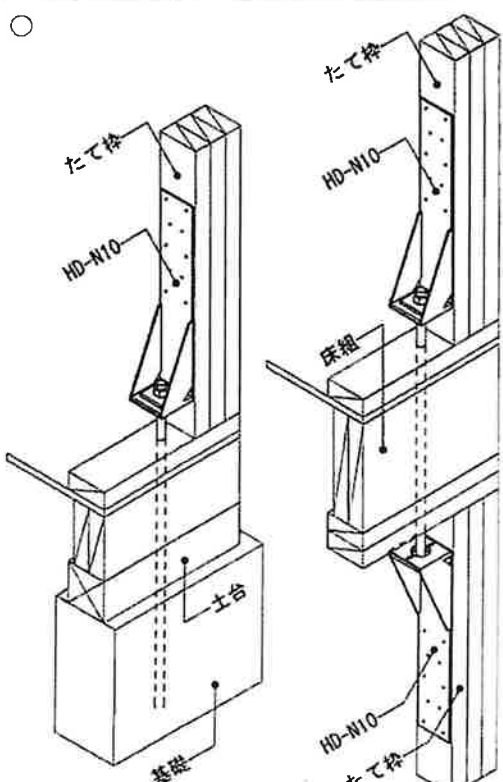
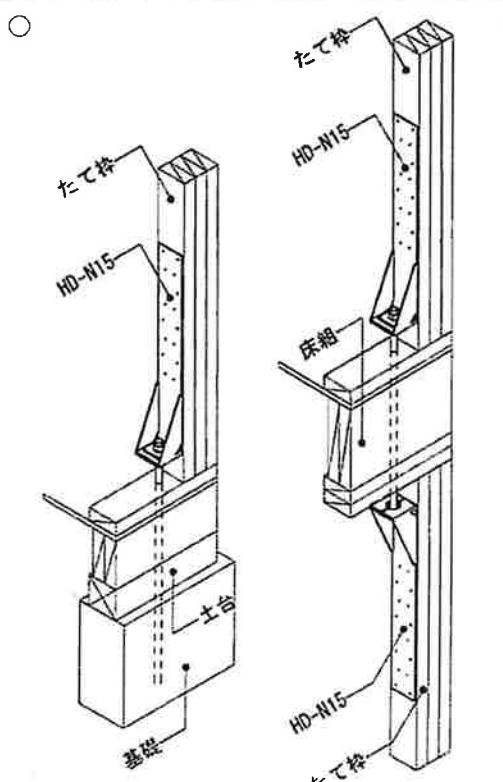
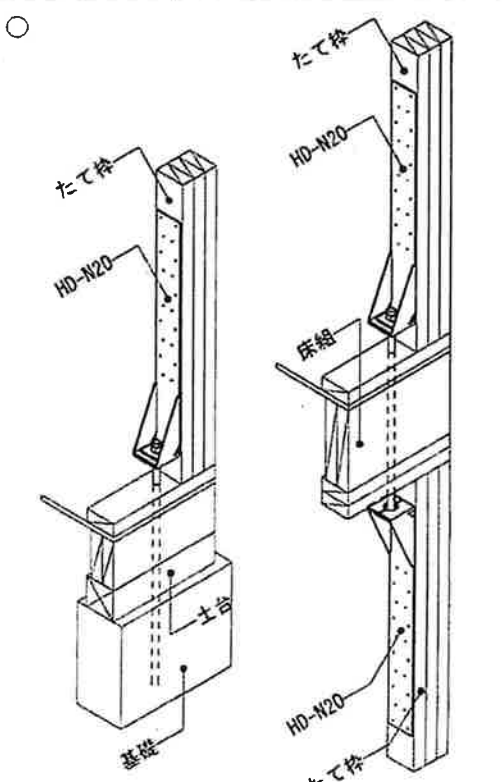
接合金物納まり例(2)					枠組壁工法 接合金物 02				
あおり止め金物 TS	たるきに 4-ZN40 頭つなぎに 2-ZN40 上枠に 2-ZN40	あおり止め金物 TW-23	たるきに 4-ZN40 頭つなぎに 1-ZN40 上枠に 1-ZN40 たて枠に 4-ZN40	あおり止め金物 TW-30	たるきに 4-ZN40 頭つなぎに 1-ZN40 上枠に 1-ZN40 たて枠に 4-ZN40	根太受け金物 JH-S204・206	(204及び206用) 横架材に 4-ZN40 根太に 4-ZN40	根太受け金物 JH204・206	(204及び206用) 横架材に 6-ZN40 根太に 4-ZN40
たるきまたはトラスと頭つなぎ、上枠の緊結		たるきまたはトラスと頭つなぎ、上枠、たて枠の緊結		たるきまたはトラスと頭つなぎ、上枠、たて枠の緊結		床根太、たるき、屋根根太又は天井の接合部に支持点がない場合の緊結		床根太、たるき、屋根根太又は天井の接合部に支持点がない場合の緊結	
									
根太受け金物 JH2-204 JH2-206	(2-204及び2-206用) 横架材に 6-ZN65 根太に 4-ZN65	根太受け金物 JH208・210	(208及び210用) 横架材に 8-ZN65 根太に 6-ZN40	根太受け金物 JH212	(212用) 横架材に 10-ZN65 根太に 6-ZN40	根太受け金物 JHS208・210R	(208及び210用右勝手) 横架材に 10-ZN65 根太に 6-ZN40	根太受け金物 JHS208・210L	(208及び210用左勝手) 横架材に 10-ZN65 根太に 6-ZN40
床根太、たるき、屋根根太又は天井の接合部に支持点がない場合の緊結		床根太、たるき、屋根根太又は天井の接合部に支持点がない場合の緊結		床根太、たるき、屋根根太又は天井の接合部に支持点がない場合の緊結		45°に根太を接合する場合の接合部に支持点がない場合の緊結		45°に根太を接合する場合の接合部に支持点がない場合の緊結	
									

[2024年 7月28日更新] 禁無断転載

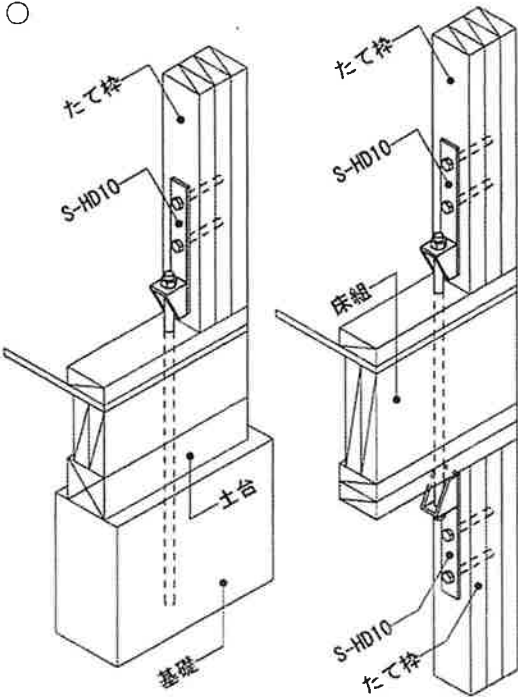
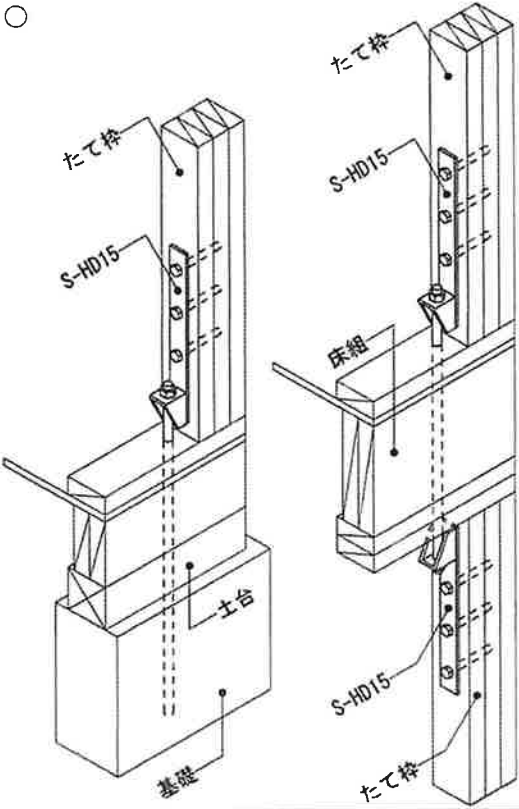
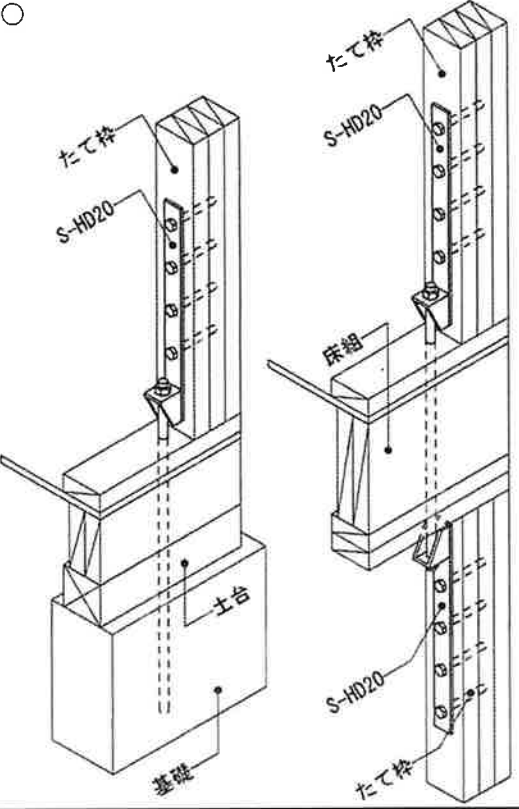
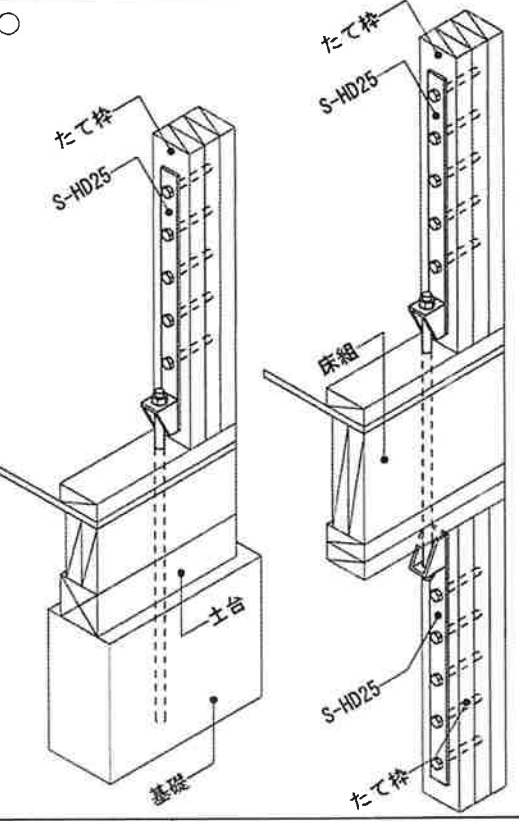
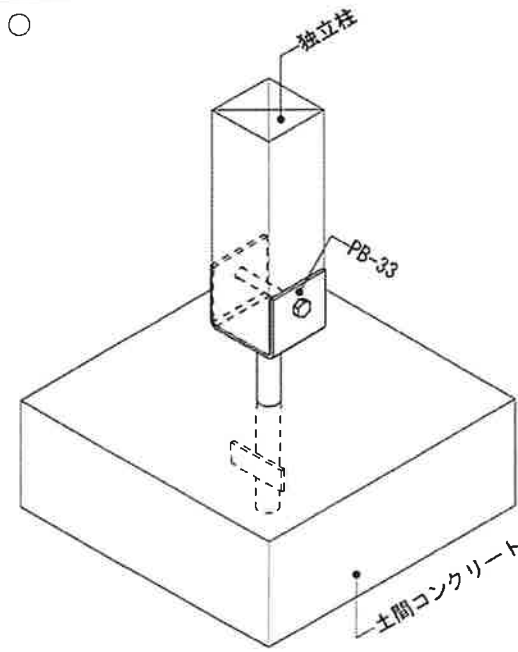
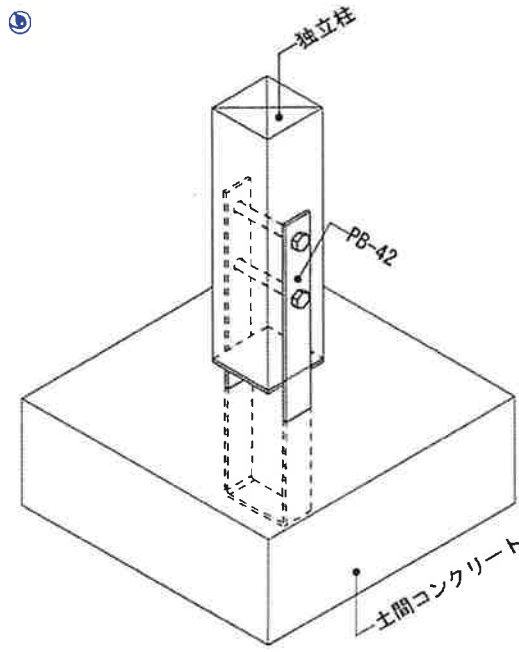
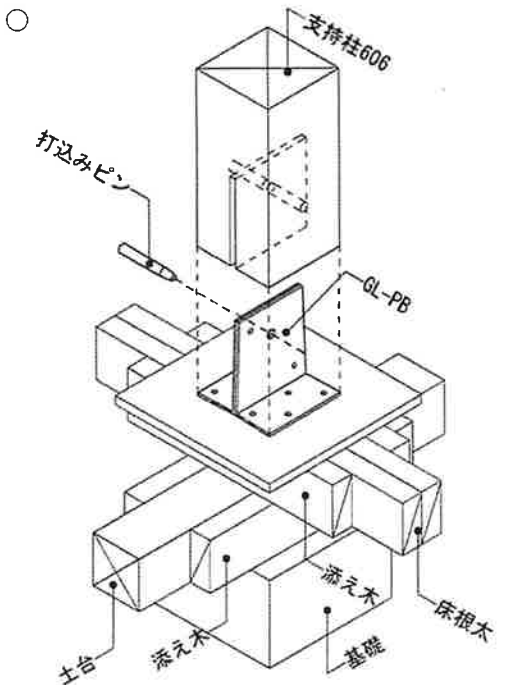
接合金物納まり例 (3)					枠組壁工法 接合金物 03				
梁受け金物 BH2-208	(2-208用) 横架材に 10-ZN65 はりに 6-ZN65	梁受け金物 BH2-210	(2-210用) 横架材に 10-ZN65 はりに 6-ZN65	梁受け金物 BH2-212	(2-212用) 横架材に 12-ZN90 はりに 6-ZN65	梁受け金物 BH3-208	(3-208用) 横架材に 14-ZN90 はりに 6-ZN90	梁受け金物 BH3-210	(3-210用) 横架材に 14-ZN90 はりに 6-ZN90
はりの接合部に支持点がない場合のはりの緊結					はりの接合部に支持点がない場合のはりの緊結				
									
									
									
梁受け金物 BH3-212	(3-212用) 横架材に 16-ZN90 はりに 6-ZN90	梁受け金物 BH4-208	(4-208用) 横架材に 14-ZN90 はりに 6-ZN90	梁受け金物 BH4-210	(4-210用) 横架材に 14-ZN90 はりに 6-ZN90	梁受け金物 BH4-212	(4-212用) 横架材に 16-ZN90 はりに 6-ZN90	梁受け金物 BHH2-210	(2-210用) 横架材に 10-ZN80 はりに 6-ZN65
はりの接合部に支持点がない場合のはりの緊結					はりの接合部に支持点がない場合のはりの緊結				
									
									
									

接合金物納まり例(4)				枠組壁工法 接合金物 04			
梁受け金物 BHH3-210	(3-210用) 横架材に 14-ZN80 はりに 6-ZN90	梁受け金物 BHS2-210R	(2-210用) 横架材に 12-ZN65 はりに 4-ZN65	梁受け金物 BHS2-210L	(2-210用) 横架材に 12-ZN65 はりに 4-ZN65		
はりの接合部に支持点がない場合のはりの緊結		45° にはりを接合する場合の接合部に支持点がない場合のはりの緊結		45° にはりを接合する場合の接合部に支持点がない場合のはりの緊結			
							
まぐさ受け金物 LH204	たて枠に 6-ZN65 まぐさに 2-ZN65	まぐさ受け金物 LH206	たて枠に 10-ZN65 まぐさに 2-ZN65	パイプガード PG	太めくぎ 4-ZN65		
開口部の幅が1m以下の場合のまぐさとたて枠の緊結		開口部の幅が1m以下の場合のまぐさとたて枠の緊結		たて枠、床根太等の配線、配管の保護			
							

[2024年 7月28日更新] 禁無断転載

接合金物納まり例 (5)				枠組壁工法 接合金物 05			
ホールダウン金物 HD-B10	六角ボルト 2-M12 又は ラグスクリュー 2-LS12	ホールダウン金物 HD-B15	六角ボルト 3-M12 又は ラグスクリュー 3-LS12	ホールダウン金物 HD-B20	六角ボルト 4-M12 又は ラグスクリュー 4-LS12	ホールダウン金物 HD-B25	六角ボルト 5-M12 又は ラグスクリュー 5-LS12
たて枠と基礎(土台)又はたて枠相互の緊結							
							
ホールダウン金物 HD-N5	太めくぎ 6-ZN90	ホールダウン金物 HD-N10	太めくぎ 10-ZN90	ホールダウン金物 HD-N15	太めくぎ 16-ZN90	ホールダウン金物 HD-N20	太めくぎ 20-ZN90
たて枠と基礎(土台)又はたて枠相互の緊結							
							

[2024年 7月28日更新] 禁無断転載

接合金物納まり例(6)				枠組壁工法 接合金物 06			
ホールダウン金物 S-HD10	六角ボルト 2-M12 又は ラグスクリュー 2-LS12	ホールダウン金物 S-HD15	六角ボルト 3-M12 又は ラグスクリュー 3-LS12	ホールダウン金物 S-HD20	六角ボルト 4-M12 又は ラグスクリュー 4-LS12	ホールダウン金物 S-HD25	六角ボルト 5-M12 又は ラグスクリュー 5-LS12
たて枠と基礎(土台)又はたて枠相互の緊結		○		○		○	
							
柱脚金物 PB-33	六角ボルト M12 六角ナット M12 全ねじボルト M12 六角袋ナット M12	柱脚金物 PB-42	六角ボルト M12 六角ナット M12 全ねじボルト M12 六角袋ナット M12	柱脚金物 GL-PB	床枠組に 8-ZN65 打込みピン 1-φ14×100		
独立柱の支持		独立柱の支持		支持柱脚部と床枠組の緊結			
							

「2024年 7月28日更新」 禁無断転載



Wald 株式会社 ヴァルト

〒381-0022長野市大字大豆島5215-1TEL026-268-4355
 ㈱ヴァルト建築士事務所 登録(長野)B 第 79071 号
 2級建築士登録 第13643号 小野 治

date

scale

project name

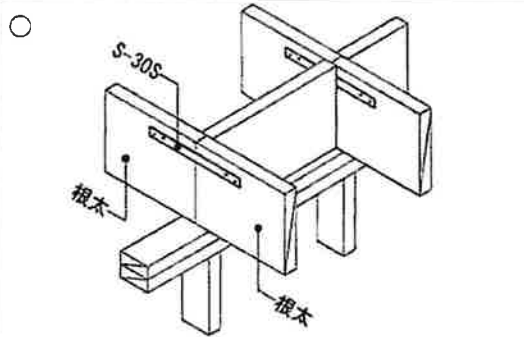
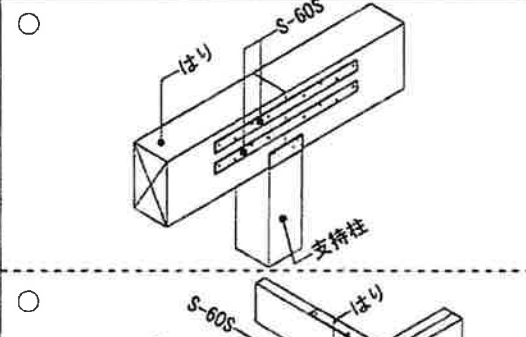
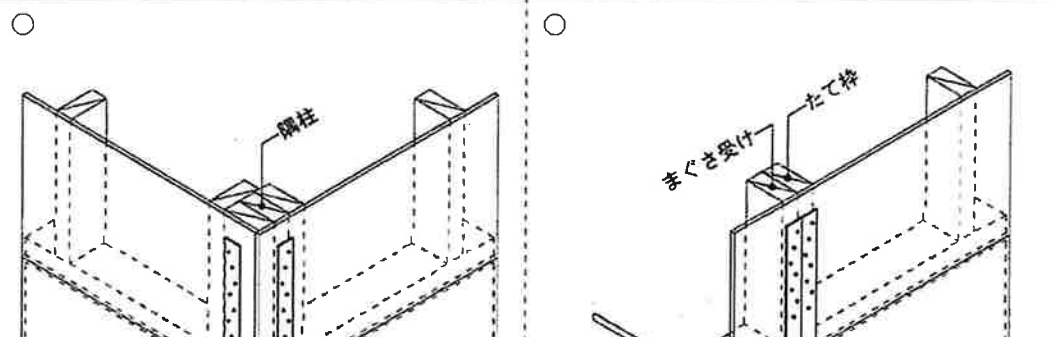
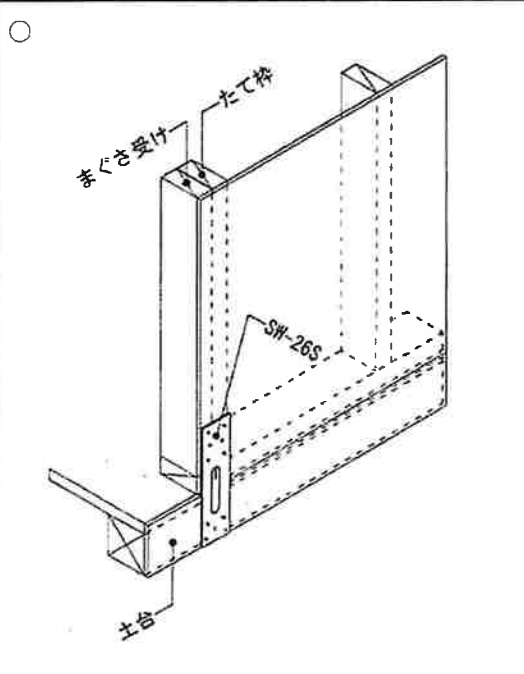
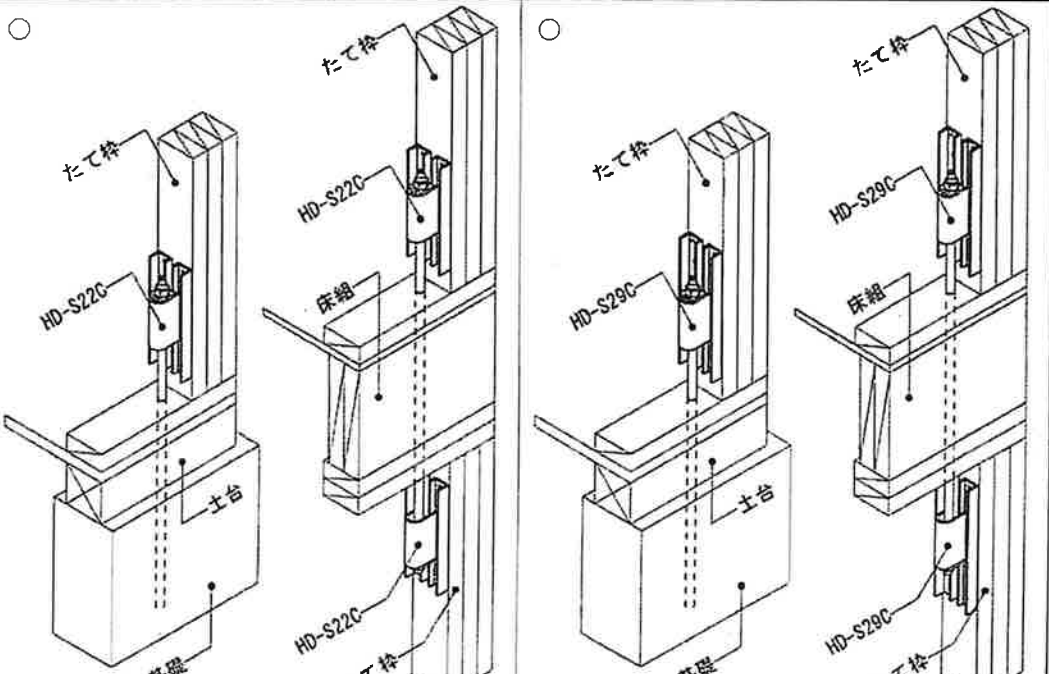
社会福祉法人まるこ福祉会 とんぼハウス新築工事

title

接合金物06

sheet no.

S-18

接合金物納まり例(7)				枠組壁工法 接合金物 07	
帯金物 S-30S	タッピンねじ 4-STS・C45	帯金物 S-60S	タッピンねじ 8-STS・C45	帯金物 S-85S	タッピンねじ 16-STS・C65
根太の接合 上枠又は頭つなぎ相互の接合 棟部たるき相互の接合 側根太相互の接合		支持柱頭部とはりの緊結 天井根太をはりに取付ける場合の天井根太同士の緊結		両面開口を設けたときの隅柱と1階壁との接合 両面開口を設けたときの側壁のまぐさ受け及びたて枠と1階壁との緊結等	
					
帯金物 SW-26S	タッピンねじ 11-STS・C65			ホールダウン金物 HD-S22C	ホールダウン金物 HD-S29C
両面開口を設けたときの側壁のまぐさ受け及びたて枠と土台の緊結				たて枠と基礎(土台)又はたて枠相互の緊結	
					

枠組壁工法構造特記仕様書(7)

外壁206・内壁204建築用

運用は適用項目に■を記入する

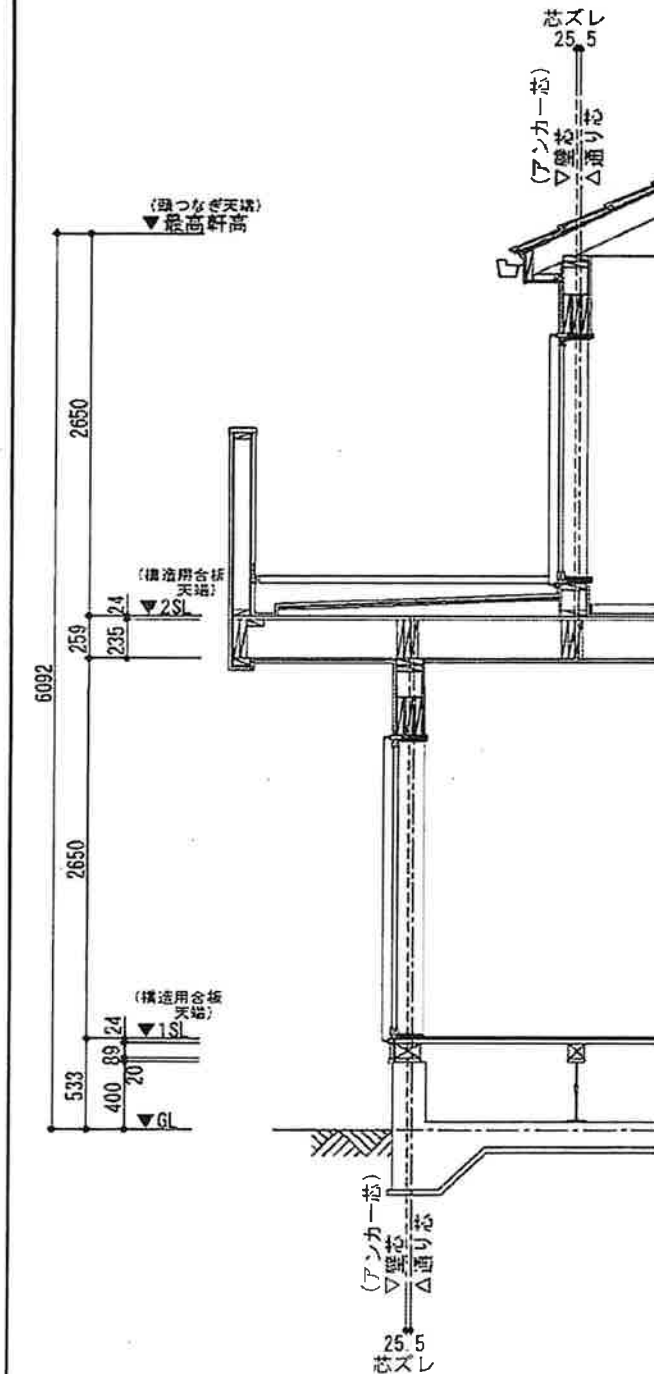
10-1. 枠組壁工法接合部の標準仕様一矩計図

- (1) 通り芯と壁芯の構成
通り芯は床面積算定用に用いる。

206壁=140mm

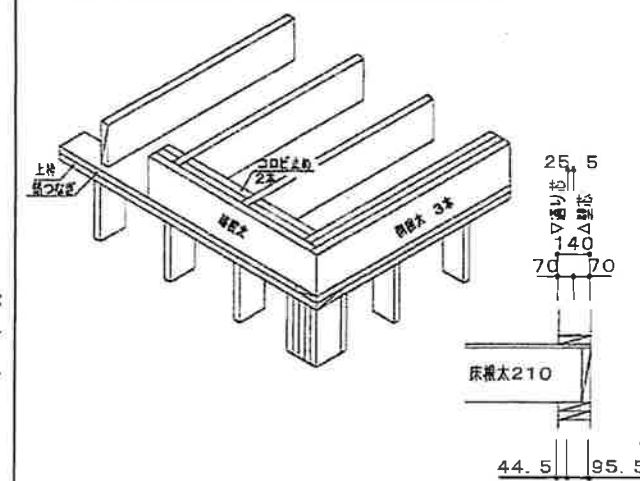
204壁=89mm

(140-89)/2=25.5mm



10-2. 枠組壁工法接合部の標準仕様一床

- (1) 床根太が直行する端根太のこぎ止めは施工性を考慮し、3本とする。
床根太が平行する側根太は施工性を考慮し、4枚合わせとする。



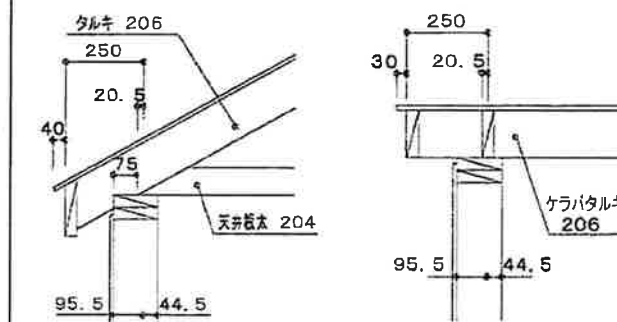
○ 床根太のこぎ打ち、こぎの種類は構造図特記無き場合下記による。

取組する部分	こぎの種類	こぎの本数	打ち方	間隔等
床根太と土台又は頭梁	CN75・CN275	2本	T	
	CN65・CN265	3本	T	
	BN75		T	
	BN65	4本	T	
端根太・側根太と土台又は頭梁	CN75・CN275		T	25cm以下
	BN75		T	18cm以下
	CN75・CN275		T	50cm以下
	BN75		T	36cm以下

10-3. 枠組壁工法接合部の標準仕様一小屋組

- (1) たるきと壁頭梁ぎの取合い
たるきと壁頭梁ぎの接合は下記いずれかによる
① 206材以上のたるきは、外壁の頭梁ぎでたるきを欠き込んで納める
たるきの欠き込み巾は原則 75mm以上且、たるき背の1/3以下を確保する
② たるきの欠き込みに替えて、頭梁ぎ材の上に傾斜材を取り付けてたるきを設置する
③ トラス構造とする場合は製造メーカーの仕様によるか、構造計算による。

○ たるきを75mm以上欠き込み納めの場合 ○ 頭梁部に「傾斜銅い木」を設置する場合



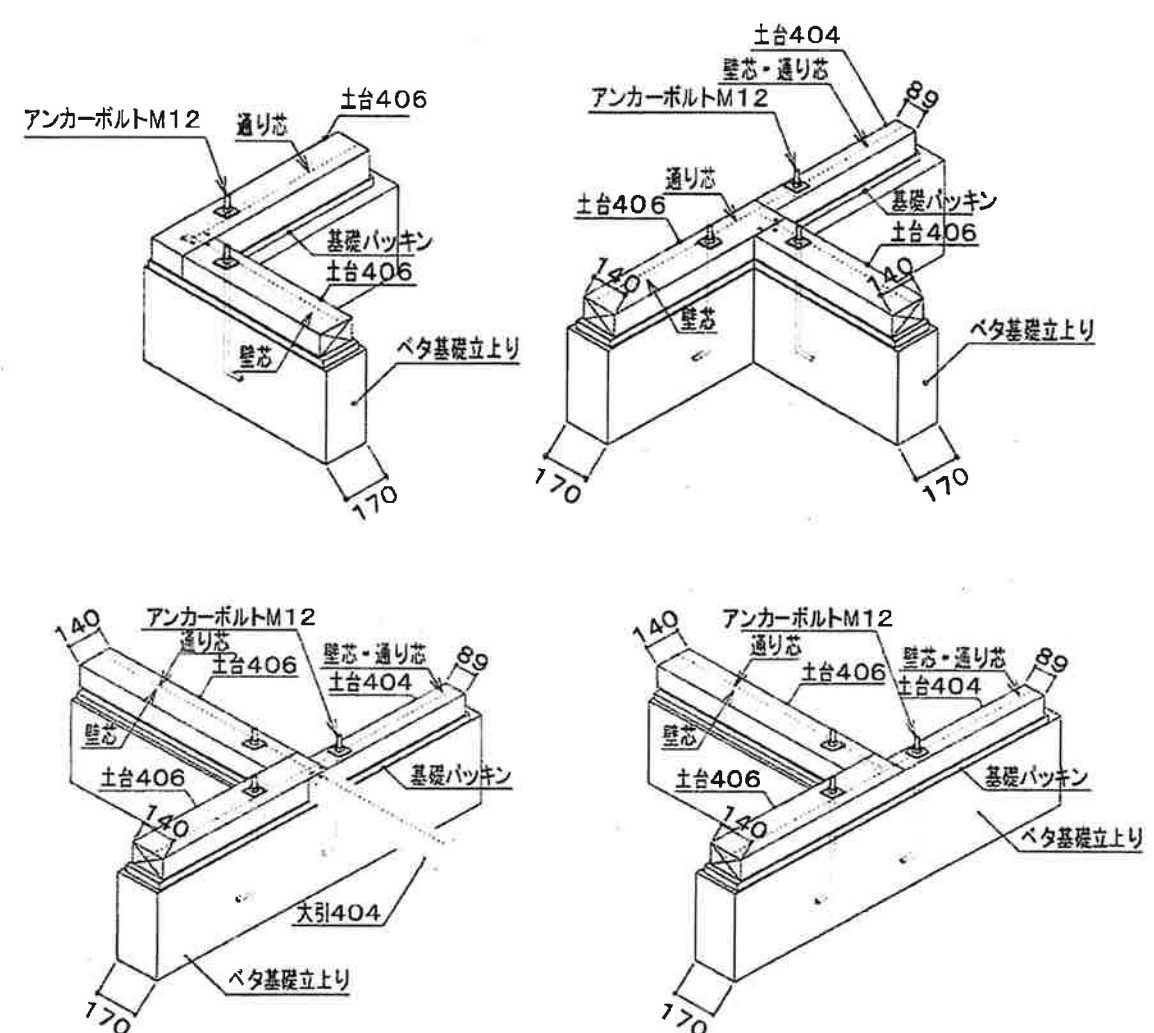
○ 床根太のこぎ打ち・こぎの種類は構造図特記無き場合下表による

取組する部分	こぎの種類	こぎの本数	打ち方
壁根梁方式	CN90・CN290	3本	F
	CN75・CN275	4本	F
	BN90・BN75	3本	F
	CN90・CN290	※こぎ打ち必要本数は構造計算又は共通仕様書による	F
たるき方式	CN75・CN275		F
	BN90・BN75		F
たるきとむなぎ	CN75・CN275	3本	T
	BN75	4本	T
たるき・天井根太又はトラスと頭つなぎ	CN75・CN275	2本	T
	CN65・CN265	3本	T

○ 本特記仕様内容は、国土交通省官庁営繕部監修令和4年版「公共建築木造工事標準仕様書」に対応した特記仕様書とする
○ 本特記仕様内容は、設計内容に合せて設計者の責任において記入、あるいは書き換えること

10-4. 枠組壁工法接合部の標準仕様一土台

- (1) 基礎とアンカーボルトの構成



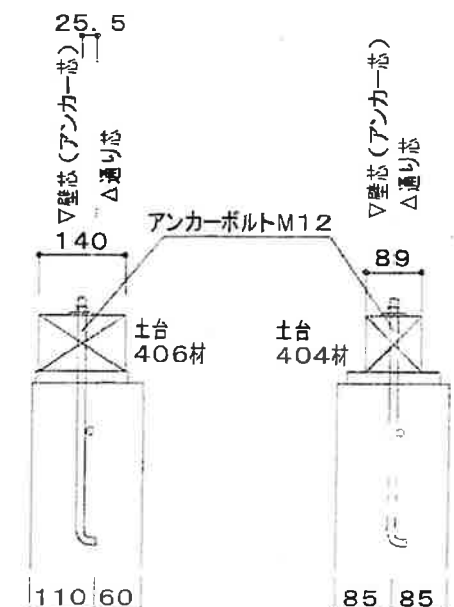
○ アンカーボルトの種別施工位置は下表による

区分	部位	アンカーボルト	設置基準	備考
告示1540号による場合	一般部	M-12	2.0m以内	
	耐力壁接合部	M-12		
構造計算による場合	各部位	M-12・M-16	構造図指定位置	
	HD・TD	M-20	構造図指定位置	

※ 告示1540号によるアンカーボルトの設置基準は構造計算により除外される

○ 土台継手・仕口のこぎ打ち・こぎの種類は構造図特記無き場合下表による

取組する部分	こぎの種類	こぎの本数	打ち方	間隔等
土台と土台	CN75・CN275	3本	T	
	BN75	3本	T	



枠組壁工法構造特記仕様書(7)

2024年12月16日更新
(一社)日本ツーバイフォー建築協会

date

scale

project name

社会福祉法人まるこ福祉会 とんぼハウス新築工事

title

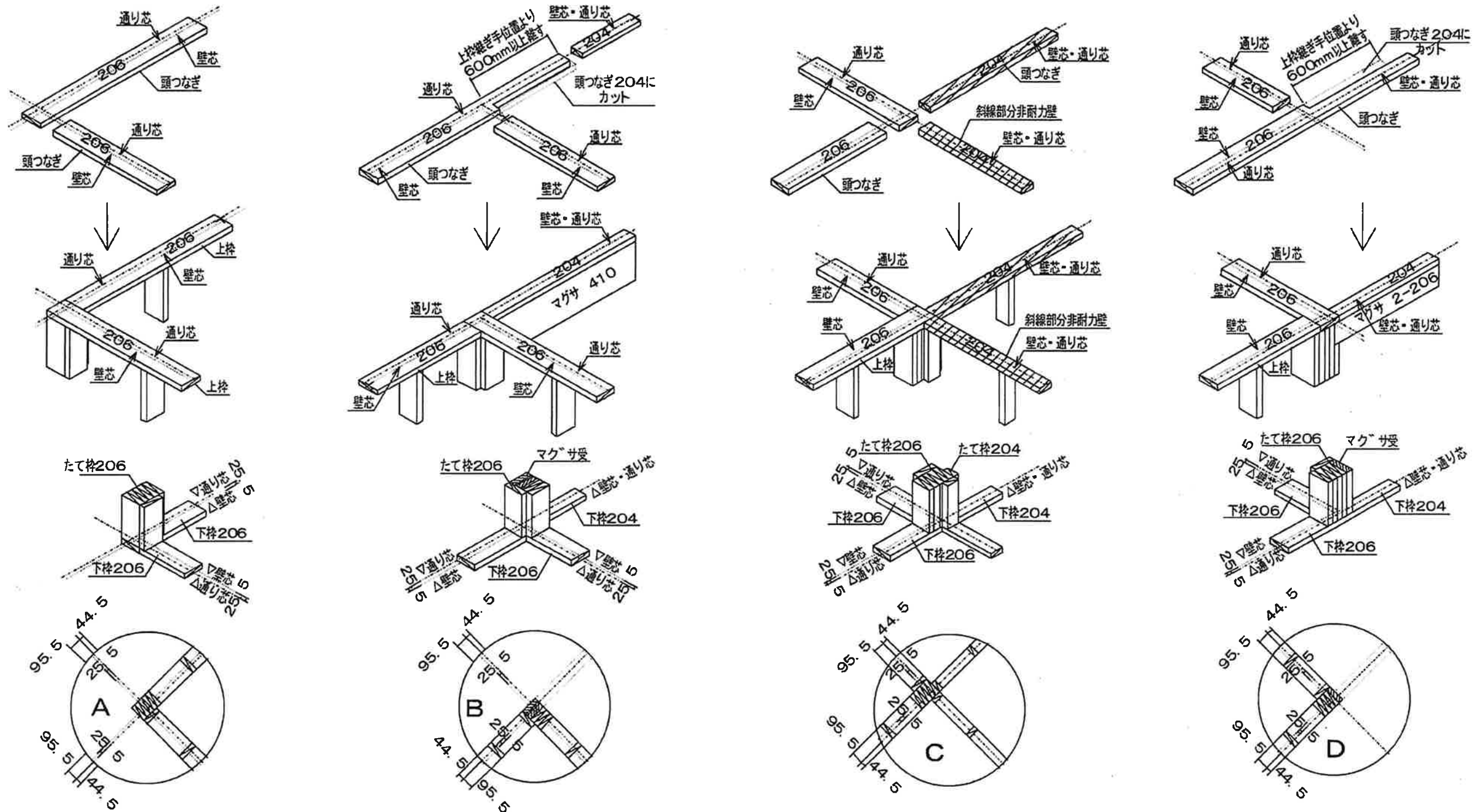
枠組み工法構造特記仕様書(7)

sheet no.

S-20

10-5. 枠組壁工法接合部の標準仕様-壁組

(1) 壁・上枠・頭上ぎの構成



○ 壁組のくぎ打ち・くぎの種類は構造図特記無き場合下表による

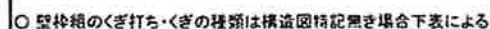
緊結する部分		緊結の方法		
	くぎの種類	くぎ本数	打ち方	間隔
たて枠と上枠又は下枠	CN90・CN290	2本	F	
	CN75・CN275	3本	F	
	CN65・CN265	4本	F	
	BN90・BN75			
下枠と床板の枠組材	3階建ての1階			
	CN90・CN290		F	25cm以下
	BN90・BN75		F	17cm以下
	CN90・CN290		F	50cm以下
その他の階	BN90		F	34cm以下
	CN90・CN290		F	50cm以下
上枠と頭上ぎ	CN90・CN290		F	50cm以下
	BN90		F	34cm以下

○ 本特記仕様内容は、国土交通省官庁登録建築師4年版「公共建築工事標準仕様書」に対応した特記仕様書とする
○ 本特記仕様内容は、設計内容に合わせて設計者の責任において記入、あるいは書き換えること

枠組壁工法構造特記仕様書(8)-1

2024年12月16日更新
(一社)日本ツーバイフォー建築協会

(1) 壁上栓・頭緊ぎの構成

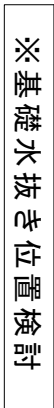


○ 本特記仕様内容は、国土交通省官庁宮城県庁令和4年版「公共建築木造工事標準仕様書」に対応した特記仕様書とする
○ 本特記仕様内容は、設計内容に合わせて設計者の責任において記入、あるいは書き換えること

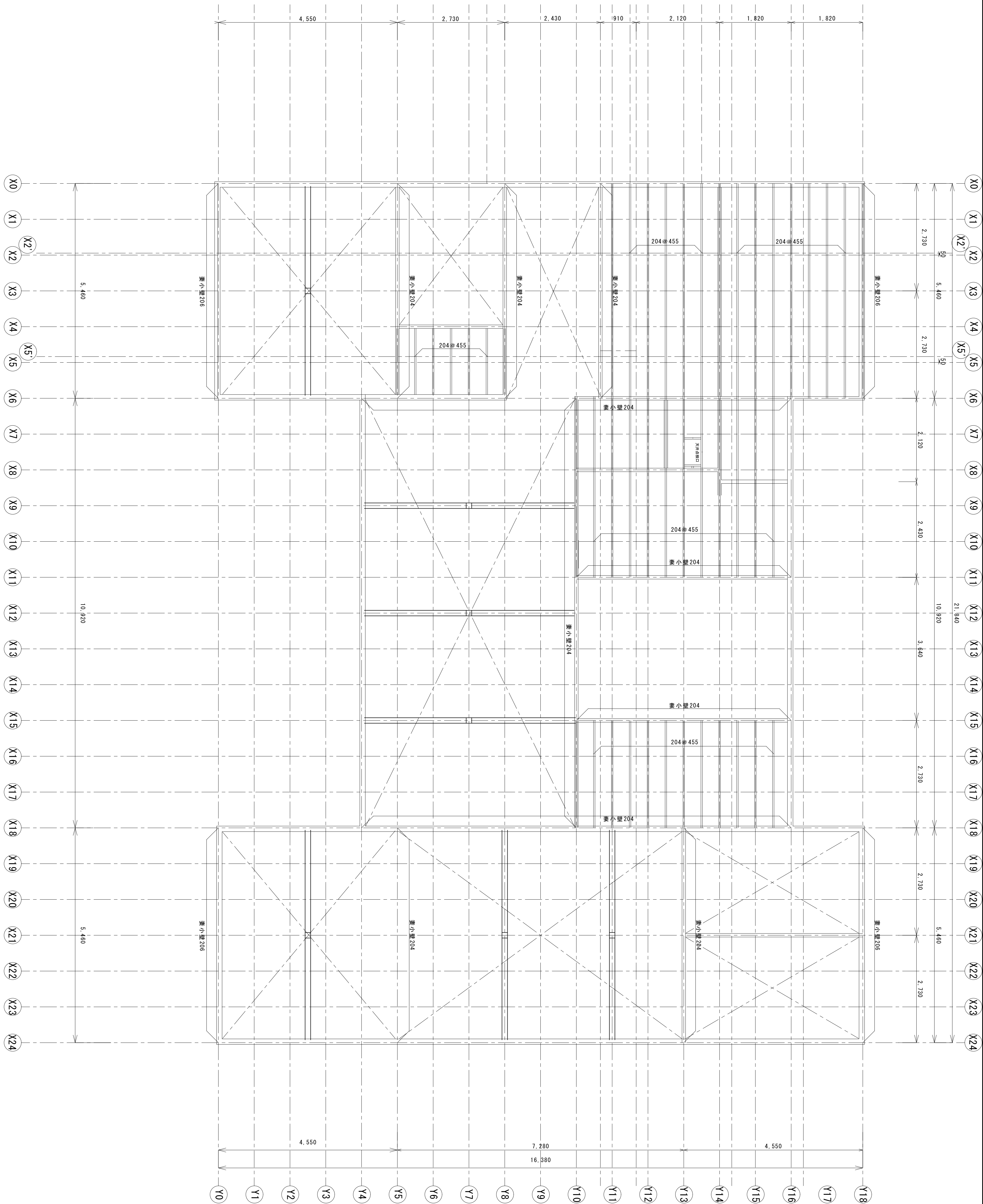
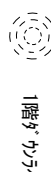
2024年12月16日更新
(一社)日本ツーバイフォー建築協会

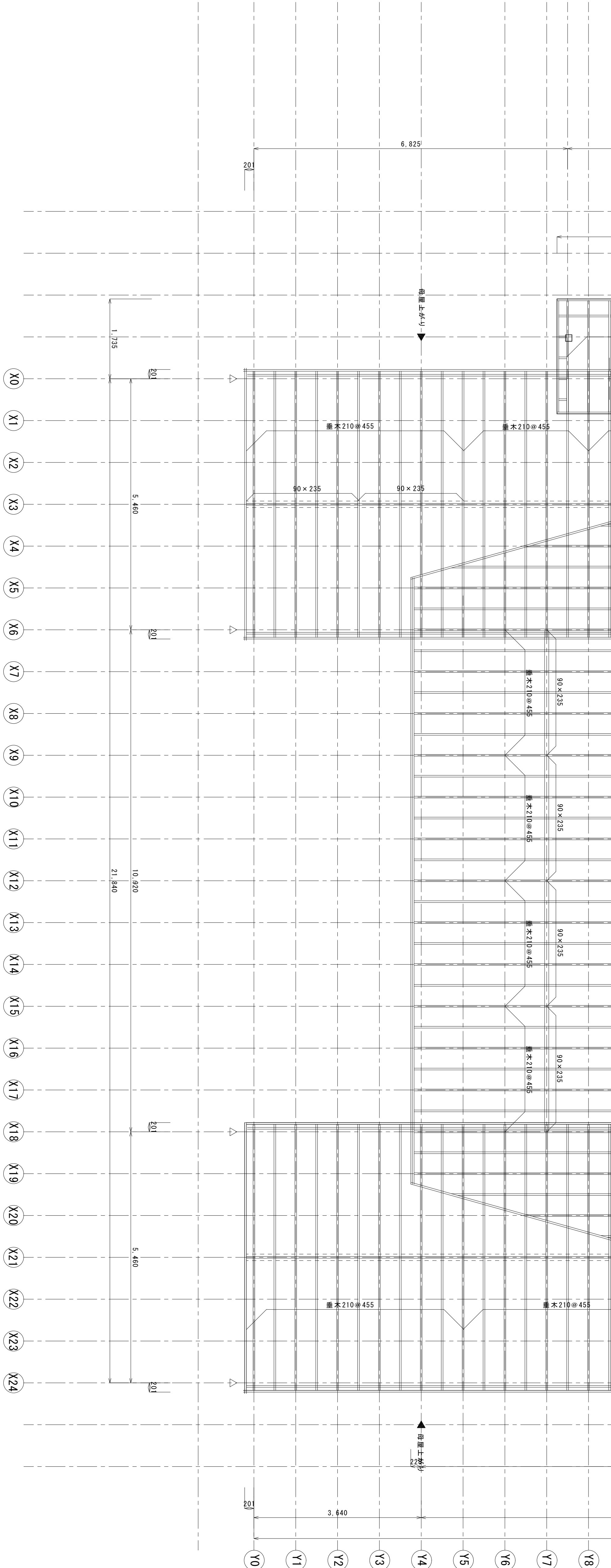
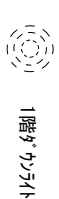
1階9号カラヤ

1999 2234



 Wald 株式会社 ヴァルト	〒381-0022 長野市大字大豆島5215-1TEL026-268-4355 ヴァルト建築士事務所 登録(長野)B 第79071号 2級建築士登録 第13643号 小野 治		date	2025.10.03	project name	社会福祉法人まるこ福祉会 とんぼハウスの新築工事	sheet no.	S-24
	scale		S=1/50		title	基礎 伏図		

[illegible]

[illegible]

date	2025. 09. 01	project name	社会福祉法人まるご福祉会 とんぼハウス新築工事	sheet no.
scale	S=1/50	title	小屋 伏図	



Wald
株式会社 グアルト

〒381-0022長野市大字大豆島5215-1TEL026-268-4355
株グアルト建築士事務所 登録(長野)B 第 79071 号 治
2 級建築士登録 第13643号 小野

新築工事 ほんまハマス

sheet no.